Panasonic

保管用 屋内専用

フレキシブルP-1シリーズ

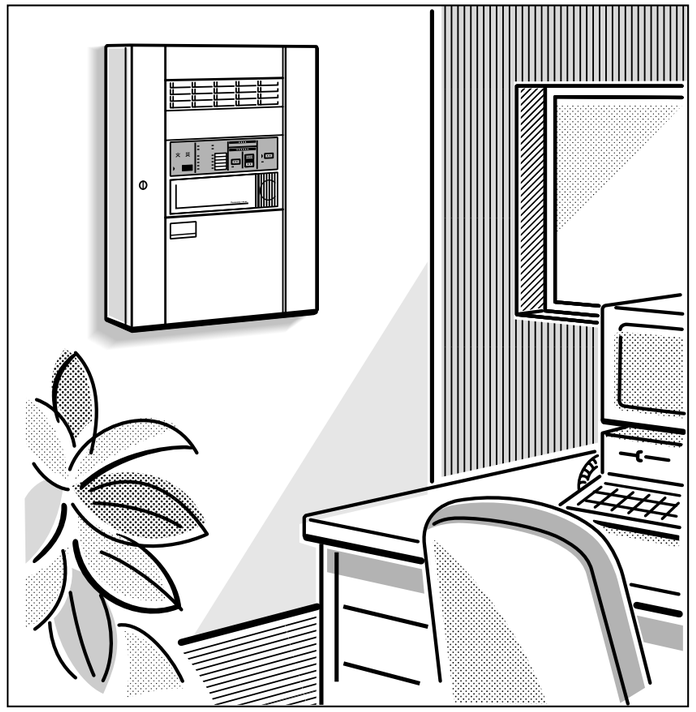
P型1級複合受信機

品番 BVF 31□□K（壁掛型）
品番 BVF 32□□KF（自立型）（□□は回線数）

取扱説明書

Ni-Cd
ニカド電池は
リサイクルへ

●お買い上げありがとうございます。
●正しくお使いいただくため、この説明書を大切に保管してください。



ご使用まえに

●この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を報知したり、防火戸などを自動的に作動させる働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
●この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
●この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検と日常の点検を行ってください。
（定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。）

●必ず 1 ～ 3 ページをお読みください。
●取り扱いされる方は 4 ～22ページをお読みください。
●点検・施工される方は24～50ページをお読みください。

取り扱いについてのご注意

●平常時には次のことを守ってください。
受信機の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。

●ベル（地区音響）一時停止スイッチを押さない。
●受信機音響強制停止状態、地区音響強制停止状態にしない。
●電源スイッチや電池を切らない。
●正常な監視状態にあるか確認する。（12ページ参照）

●警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合
●119番などに通報する。
●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。

火災でない場合
●発生原因がわかれば取り除く。
●発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

交流電源スイッチを「入（ON）」側にするときのご注意

非常放送連動・移信連動・消火栓連動・防排煙連動は、すべて停止解除（連動可能）状態で機能します。
接続されている機器が連動しないように注意してください。

受信機の扉をあけるときのご注意

180°以上、扉をあけると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあるので注意してください。

連絡先一覧表 施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施　工　店	TEL
設備竣工	年　月　日

パナソニック電工株式会社 HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008
8A2 E54 00003 K0604-21208A

この設備をご使用になる皆様へ

安全に正しくお使いいただくために

この設備を正しくお使いいただくためや、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取扱説明書には、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
⚠注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

一般的な禁止

分解禁止

必ず行う

安全上のご注意

●ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

⚠警告

取り扱い管理される方へ

禁止

●保守・点検以外で、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さないでください。
(スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態)
火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
●防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。感電・故障の原因になります。
●ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。
感電・故障の原因になります。
●感知器は、絶対に取りはずさないでください。
出火時に火災発見ができません。
●防火戸・防火シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かないでください。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。

分解禁止

●機器を分解したり、修理・改造はしないでください。
故障の原因になります。

点検・施工される方へ

禁止

●保守・点検以外で、受信機音響強制停止状態・地区音響強制停止状態にしないでください。
(スイッチ注意灯・受信機音響強制停止灯・地区音響強制停止灯が点滅状態)
火災時に警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
●ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。
感電・故障の原因になります。
●感知器は絶対に取りはずさないでください。
出火時に火災発見ができません。
●防火戸・防火シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かないでください。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。
●電池は火に投入したり、ショートさせないでください。
爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。

必ず行う

●電池は必ず接続してください。
電池が接続してないと停電時に機能しません。

分解禁止

●機器を分解したり、修理・改造はしないでください。
故障の原因になります。

定期点検について

防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。
施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています……

消防関係法令では、防火対象物の責任者（建物の所有者、管理者または占有者）は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の4

- ●点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- ●点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点　検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	外観点検および機能点検	6ヶ月に1回
	総合点検	1年に1回
配線	総合点検	1年に1回

■報　告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

点検には資格が必要です……

定期点検は、国が定めた資格者（消防設備点検資格者または消防設備士）が行うよう、法令で決められています。

■消防法第17条の3の3

- ●消防用設備の点検は、消防設備士または総務大臣が認める資格者に行わせなければならない。

「パナソニック防災取扱店と点検契約」をおすすめします

パナソニック防災取扱店などと「点検契約」を結びますと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。
防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

取り扱いされる方へ

もくじ

1.各部のなまえとはたらき ―― 5～9

壁掛型
- ●【本体】……5～6
- ●操作表示部・付属品……7～8

自立型
- ●【本体】・付属品 ・操作表示部……9

2.お手入れ方法 ―― 10
3.ご注意 ―― 11
4.平常時の受信機の状態 ―― 12
5.火災時の地区音響一時停止動作・拡大警報動作について ―― 13～14
6.受信機が警報した場合 ―― 15～17
- ●火災のとき……15
- ●火災でないとき……15～16
- ●付属設備の作動について……17
- ●諸警報時の対処方法……17

7.電話機の使い方 ―― 18
8.防火戸用ロックのリセット方法 ―― 19
9.日常点検 ―― 20
10.異常時の点検・処置 ―― 21～22

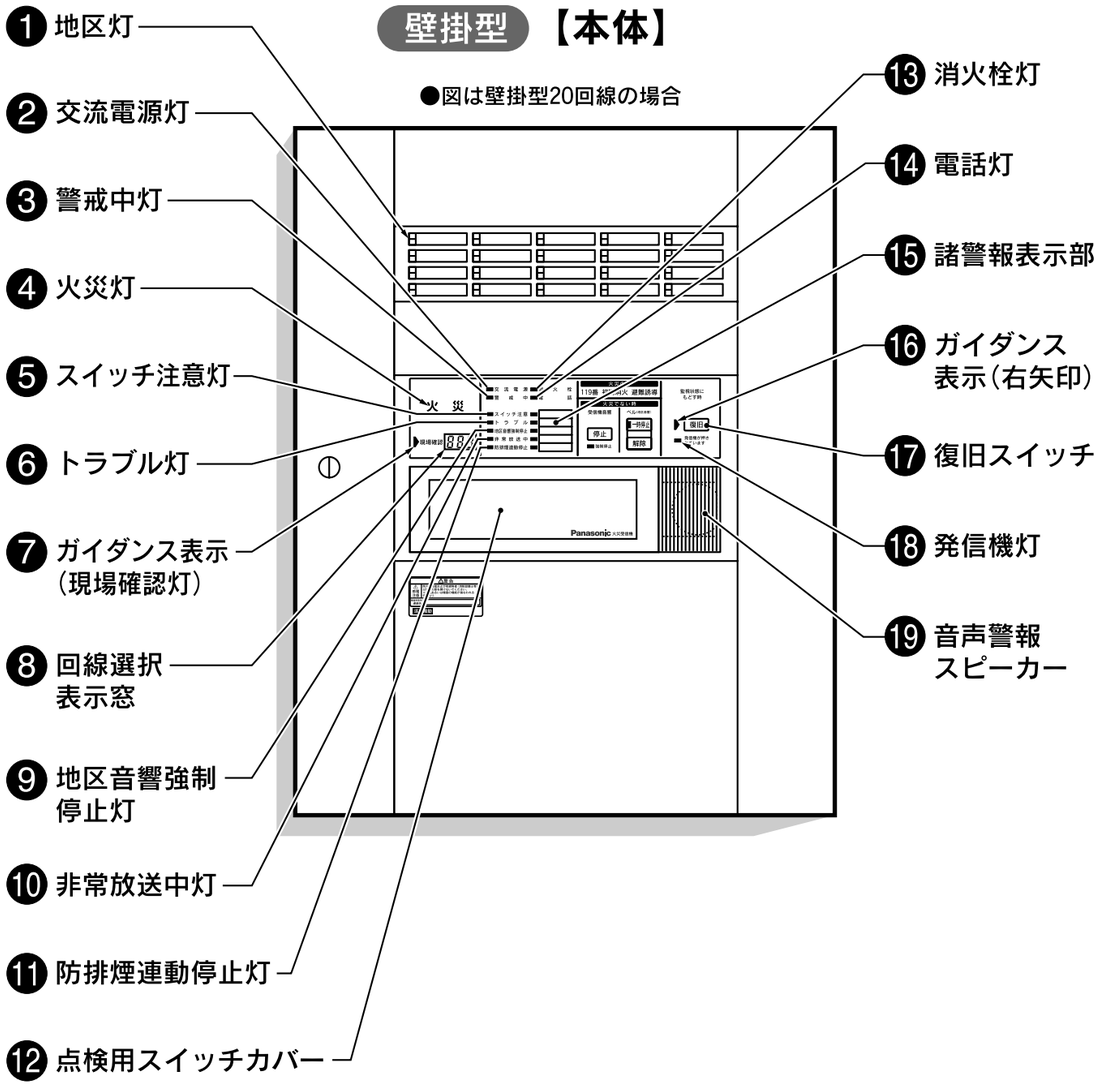
1.各部のなまえとはたらき

⚠警告

禁止

●防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。感電・故障の原因になります。

●保守・点検以外で、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さないでください。
(スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態)
火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。



❶ 地区灯(赤)
●上部灯の「点灯」で火災発生を「点滅」で感知器配線の断線を知らせます。
●下部灯の「点灯」で防火戸などの作動を「点滅」で防火戸などの未作動を知らせます。

❷ 交流電源灯(緑)
交流電源が入っていることを、点灯で知らせます。

❸ 警戒中灯(緑)
電源投入後、30～60秒後(イニシャル完了後)に点灯します。
地区音響強制停止中、受信機音響強制停止中、または試験復旧スイッチが押されていると点灯しません。

❹ 火災灯(赤)
火災信号が入れば点滅します。

❺ スイッチ注意灯(赤)
いずれかのスイッチが通常の状態でないとき、点滅して知らせます。

❻ トラブル灯(赤)
受信機または配線に異常が起きたとき、点滅して知らせます。
点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。
●トラブル内容は、回線選択表示窓で確認できます。(38・39ページ参照)

❼ ガイダンス表示(現場確認灯)(◗)
火災信号が入れば点滅します。

❽ 回線選択表示窓
火災信号が入ったとき、地区灯の点灯と同時に発報回線を表示したり、トラブル内容の表示をしたりします。

❾ 地区音響強制停止灯(赤)
地区音響の「強制停止」機能が作動していると点滅して知らせます。
(約1分間隔でピー音が鳴ります。)

❿ 非常放送中灯(赤)
非常放送設備のマイクスイッチを作動させると点滅して知らせます。

⓫ 防排煙連動停止灯(赤)
防火戸などが連動しない状態にあることを、点滅して知らせます。

⓬ 点検用スイッチカバー
カバー内のスイッチは点検・試験用です。
通常は操作する必要はありません。

⓭ 消火栓灯(赤)
消火栓が作動すると点滅します。(17ページ参照)

⓮ 電話灯(赤)
電話の呼び出し(プルプル音)があると点滅します。(18ページ参照)

⓯ 諸警報表示部(赤)
諸設備に異常が起きたとき、点灯で知らせます。

⓰ ガイダンス表示(右矢印)(◗)
復旧作業が必要なとき、点滅で知らせます。

⓱ 復旧スイッチ
押すと火災灯・地区灯・ガイダンス表示(現場確認灯)が消灯し、主音響・地区音響が止まり、通常の監視状態に戻ります。

⓲ 発信機灯(赤)
発信機の押ボタンが押されると点滅します。

⓳ 音声警報スピーカー下記の表のように鳴動します。

受信機の状態		警報音	音声メッセージ
火災警報(第1報)		ピーピー	火災感知器が作動しました。現場を確認してください。(女性の声)
火災警報(第2報または発信機発報)		ピーピー	火事です。火事です。現場を確認してください。(男性の声)
電話呼出		プルプル プルプル	———
諸警報入力・防火戸などの作動		ブーブー	———
トラブル時		ビー	トラブルが発生しました。(女性の声)
トラブル確認時	電池未接続	———	バッテリーが異常です。(女性の声)
	感知器配線断線	———	感知器配線が異常です。(女性の声)
	非常放送配線断線	———	非常放送配線が異常です。(女性の声)
	ヒューズ断線	———	ヒューズが切れています。(女性の声)
	回路電圧異常	———	回路電圧が異常です。(女性の声)

●電話呼出音響は、電話機プラグを電話ジャックに差し込めば止まります。
●設定により、防火戸などの作動音響を鳴動させる設定ができます。(施工店にご相談ください。)

1.各部のなまえとはたらき

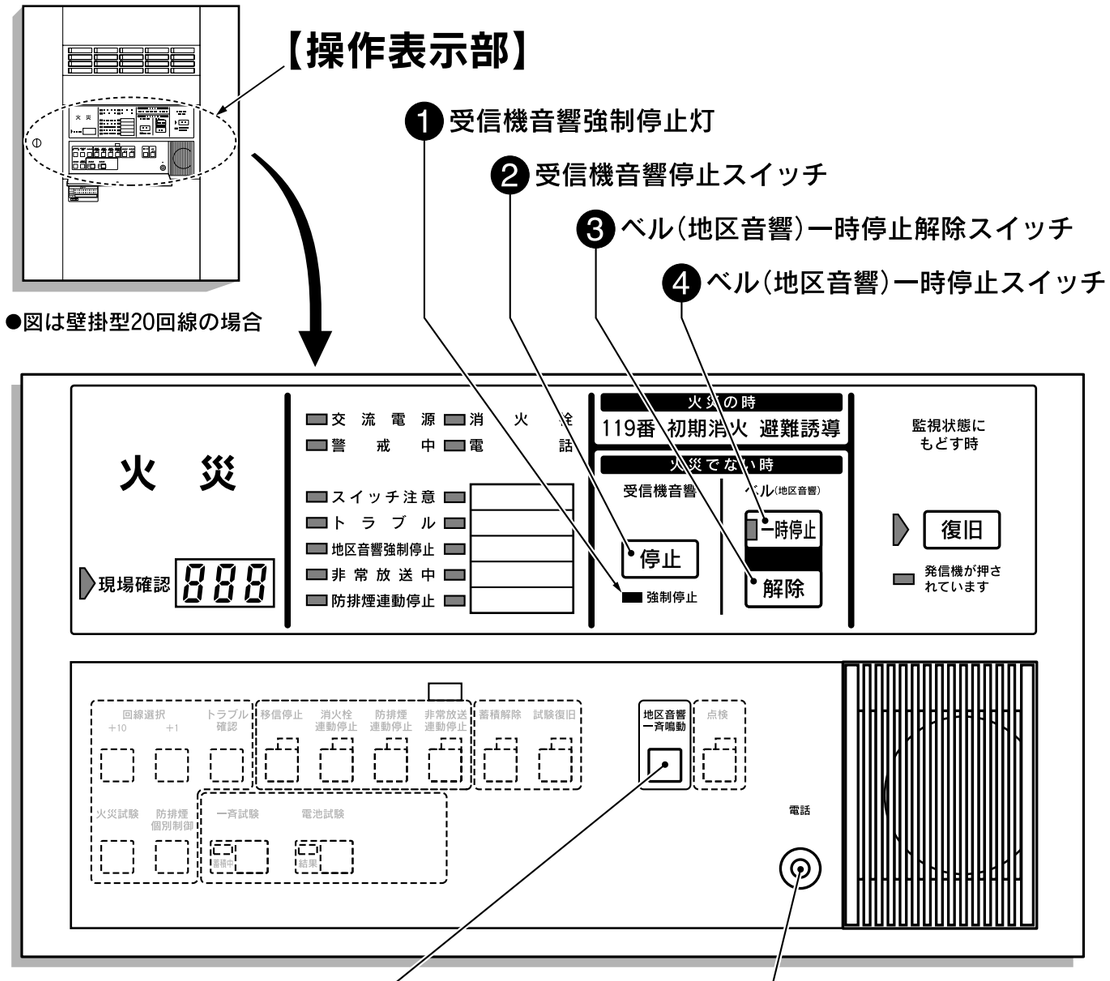
⚠警告

禁止

- ●防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。感電・故障の原因になります。
- ●保守・点検以外で、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さないでください。
  (スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態)
  火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
- ●点検用スイッチカバー内にある電話ジャック、地区音響一斉鳴動スイッチ以外のスイッチなどは操作しないでください。
  (点検資格者、消防設備士が操作するところです。)

壁掛型

※点検用スイッチカバーをあけた状態



●図は壁掛型20回線の場合

❶受信機音響強制停止灯(赤)

主音響・諸警報音響・トラブル音響・防排煙作動音響の「強制停止」機能が作動していると点滅して知らせます。点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。

❷受信機音響停止スイッチ

押すと主音響・諸警報音響・トラブル音響・防排煙作動音響が止まります。

- ●主音響・諸警報音響・トラブル音響・防排煙作動音響は一度止めても、新たな火災信号・諸警報信号・トラブル信号・防排煙作動信号が入れば、再び鳴動します。

❸ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ

押すとベル(地区音響)一時停止スイッチにより停止された地区音響は再度鳴動し、ベル(地区音響)一時停止スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が消灯します。

❹ベル(地区音響)一時停止スイッチ(赤色ランプ付)

押すと地区音響が一時的に止まり、スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が点滅します。
ベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押すと、地区音響の一時停止状態が解除され、スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が消灯します。
(12～14・16ページ参照)

受信機内部で鳴動停止時間(自動解除時間(TA))の設定をすることができます。
施工店にご相談ください。

❺地区音響一斉鳴動スイッチ(赤色ランプ付)

地区音響装置が鳴動あるいは非常放送設備が火災放送を行い、スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が点滅します。

❻電話ジャック

電話機のプラグを差し込み、副受信機または発信機との通話に使用します。(18ページ参照)

付　属　品

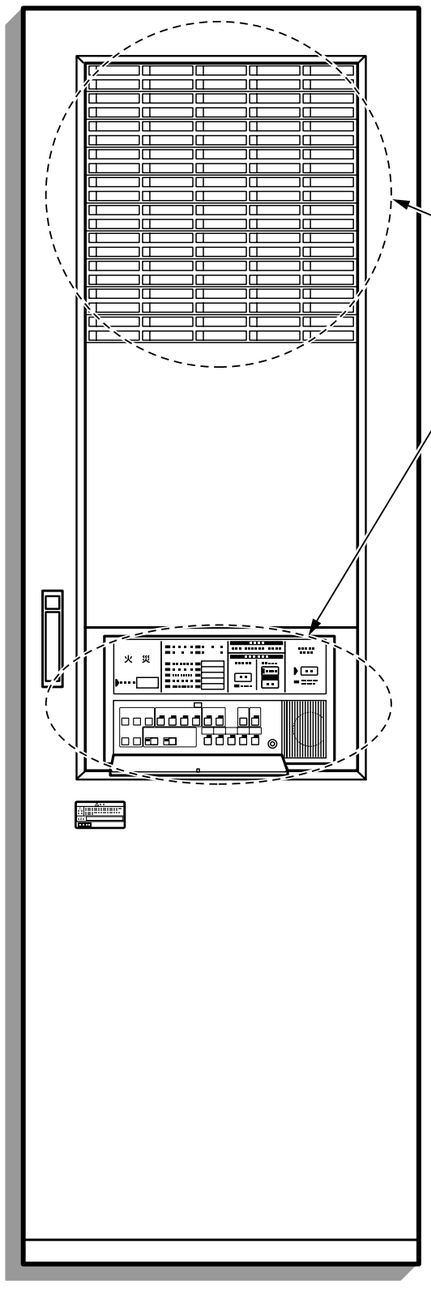
- 取扱説明書(本紙)……1冊
- 予備品 保管用 (ヒューズなど)……1セット
- 電話機……2台
- 施工説明書……1冊
- 掲示板……1枚
  (自動火災報知設備の取り扱いについて)
- 設定マニュアル……1冊
- 設定シート……2枚
- 設定表……9枚
- パナソニック電工
  お客様ご相談窓口のご案内……1枚

1.各部のなまえとはたらき

自立型【本体】

※点検用スイッチカバーをあけた状態

●図は自立型100回線の場合



この部分のスイッチの使用方法、スイッチの位置などは壁掛型と同じです。
(5～8ページ参照)

付　属　品

取扱説明書(本紙)……1冊
予備品 保管用 (ヒューズなど) …… 1セット
電話機……2台
施工説明書……1冊
掲示板……1枚
(自動火災報知設備の取り扱いについて)
設定マニュアル……1冊
設定シート……2枚
設定表 …… 10枚
パナソニック電工
お客様ご相談窓口のご案内……1枚

2.お手入れ方法

⚠注意

●清掃時、受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認してください。
正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。
(「4. 平常時の受信機の状態」(12ページ) を確認してください。)

■表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

●ふだんのおそうじは…

やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは

中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。

〔化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。〕

注

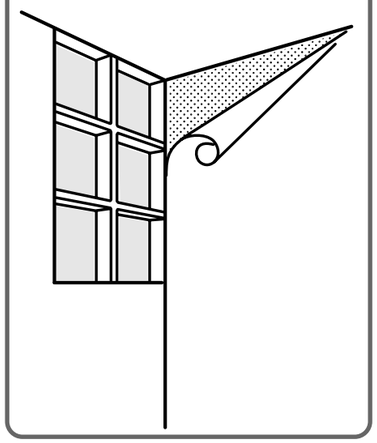
●ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。

3.ご 注 意

■こんなときは、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

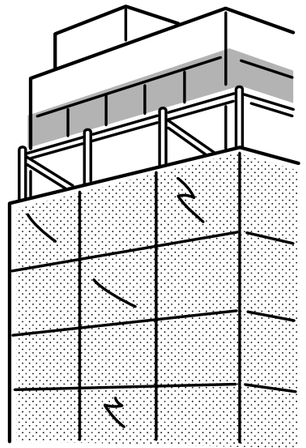
増 改 築

●増築や改装をしたとき



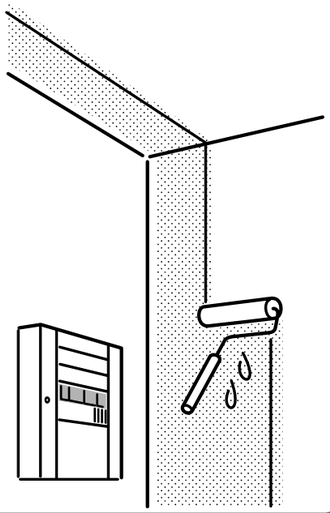
修　繕

●建物を修繕したとき



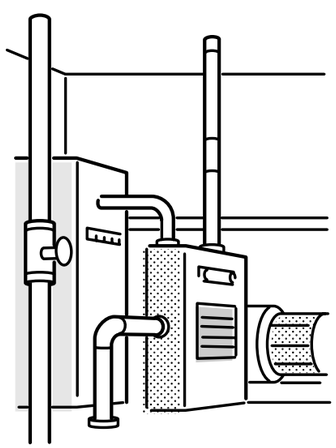
塗りかえ

●天井や壁を塗りかえたとき



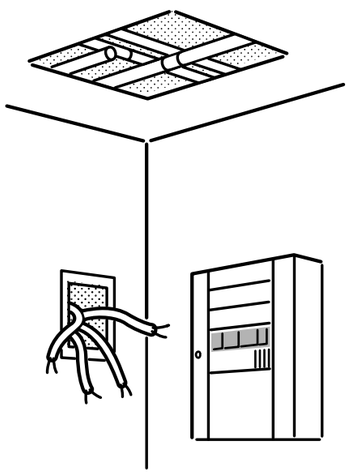
設 備 工 事

●設備の工事をしたとき



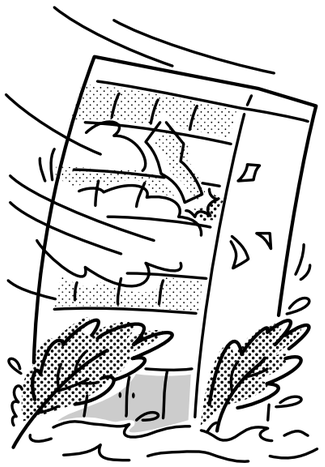
電気・ガス・水道工事

●電気・ガス・水道工事をしたとき



天 災 被 害

●台風・雷・地震などの被害を受けたとき

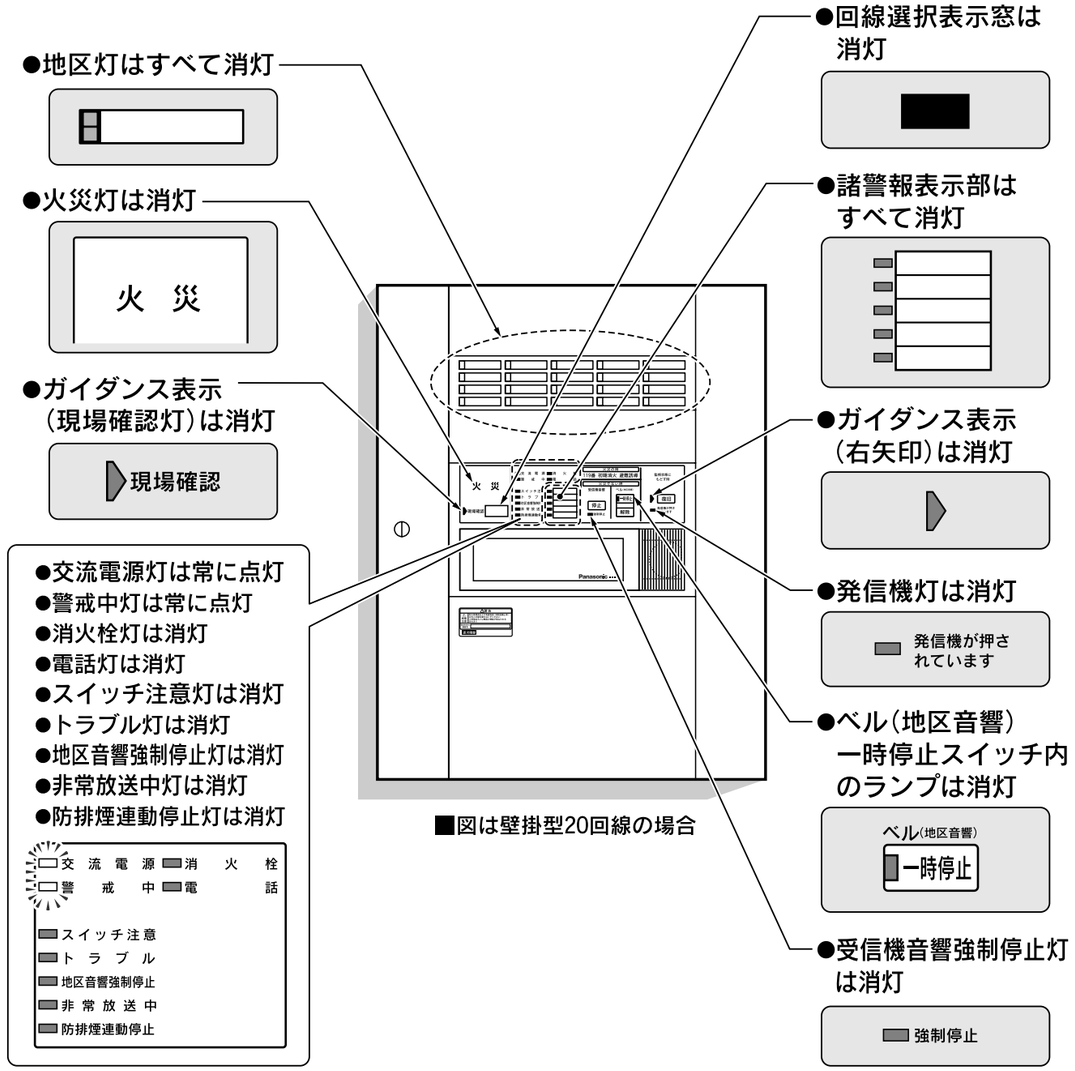


4.平常時の受信機の状態

⚠注意

●受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認してください。
正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。
●点検用スイッチカバーは必ず閉じてください。
引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

●火災が発生したとき、受信機が正常に動作するよう、平常時は下図の状態であることをお確かめください。平常時において下図のような状態とならない場合は、「10. 異常時の点検・処置」(21・22ページ)の内容を確認のうえ点検契約店にご連絡ください。



■図は壁掛型20回線の場合

5.火災時の地区音響一時停止動作・　拡大警報動作について

■地区音響一時停止動作について

●感知器が作動し、地区音響が鳴動しているときにベル（地区音響）一時停止スイッチを押すと地区音響が一時的に停止します。その後、受信機内で設定された時間（自動解除時間（TA））経過後に再度、地区音響が鳴動する動作です。一時停止中に発信機の発報が入った場合、または第2報めの火災発報が入った場合は、自動解除時間（TA）中であっても自動的に解除します。

■拡大警報動作について

●第1報めの火災発報を受信してから、受信機内で設定された時間（一斉鳴動移行時間（TC））経過後に全回線一斉鳴動へと移行する動作です。発信機の発報が入った場合、または第2報めの火災発報が入った場合は、一斉鳴動移行時間(TC)中であっても全回線一斉鳴動します。

■自動解除時間（TA）の設定が「2分」、一斉鳴動移行時間（TC）の設定が「6分」の場合

●自動解除時間（TA）・一斉鳴動移行時間（TC）の設定については、施工説明書（3ページ）を参照してください。

1 感知器が作動する。

●主音響・地区音響が鳴動し、火災灯は点滅・地区灯は点灯します。

2 受信機音響停止スイッチを押す。

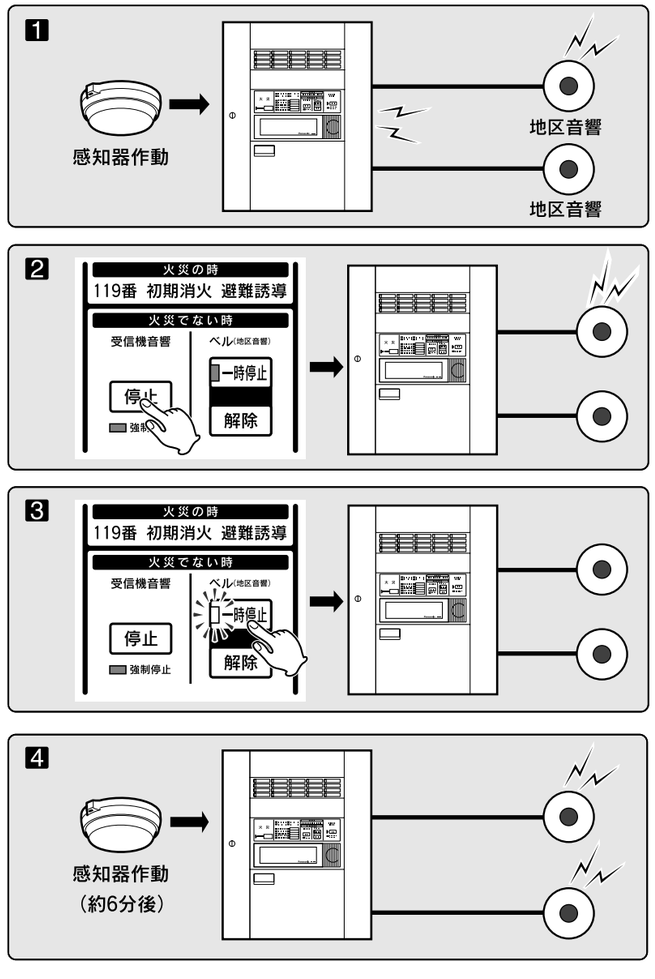
●主音響は停止し、火災灯は点滅・地区灯は点灯しています。
●地区音響は鳴動しています。

3 ベル（地区音響）一時停止スイッチを押す。

●地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。
再度、押すと地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。

4 感知器が作動してから約6分後に地区音響が一斉鳴動します。

●地区音響一時停止中に約6分経過した場合、地区音響一時停止解除後に地区音響が一斉鳴動します。
●感知器が復旧している場合、復旧スイッチを押すと地区音響一時停止状態は解除され通常の監視状態に戻ります。
●発信機の押ボタンが押されると地区音響が全回線一斉鳴動します。



■自動解除時間（TA）の設定が「2分」、一斉鳴動移行時間（TC）の設定が「移行しない」の場合

●自動解除時間（TA）・一斉鳴動移行時間（TC）の設定については、施工説明書（3ページ）を参照してください。

1 感知器が作動する。

●主音響・地区音響が鳴動し、火災灯は点滅・地区灯は点灯します。

2 音響停止スイッチを押す。

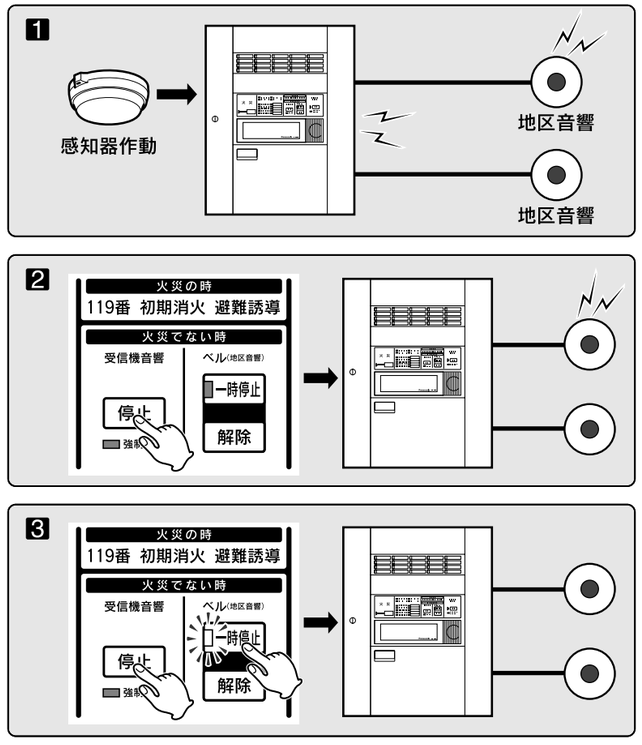
●主音響は停止し、火災灯は点滅・地区灯は点灯しています。
●地区音響は鳴動しています。

3 ベル（地区音響）一時停止スイッチを押す。

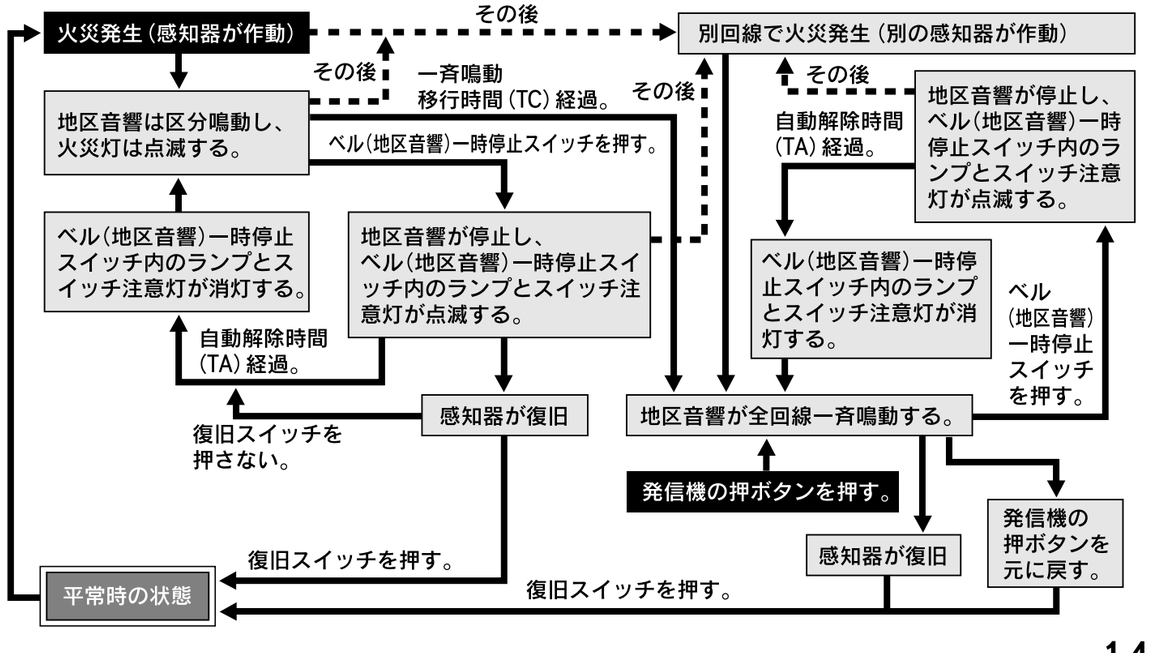
●地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。
再度、押すと地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。

●地区音響一斉鳴動状態へは、移行しません。

●感知器が復旧している場合、復旧スイッチを押すと地区音響一時停止状態は解除され通常の監視状態に戻ります。
●一斉鳴動移行時間（TC）の設定が「移行しない」の場合は、発信機の押ボタンを押しても地区音響が一斉鳴動にはなりません。
この場合は、区分鳴動動作をします。



■地区音響の鳴動／停止の動作について

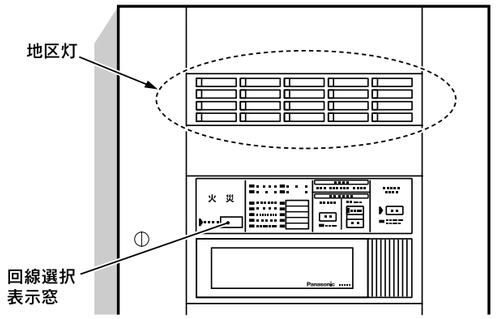


6.受信機が警報した場合

■主音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。

1 地区灯(赤)の点灯位置によってどこで火災が起きているか確かめます。

火災信号の入ったとき、地区灯の点灯と同時に回線選択表示窓でも発報回線を表示します。
2報め、3報めが入ってきて地区灯の点灯回線が増えても、表示では第1報めの回線表示を保持し現場確認の優先順位を示します。



出火場所へ行き状況を確認する

火災でないとき

2 受信機音響停止スイッチを押し、主音響を止める。

●ガイダンス表示(右矢印)は点滅し、地区音響は鳴動しています。

●発信機の押ボタンが押されて発報している場合は、発信機灯が点滅します。
●発信機灯が消灯している場合は、感知器が作動したことによる発報です。

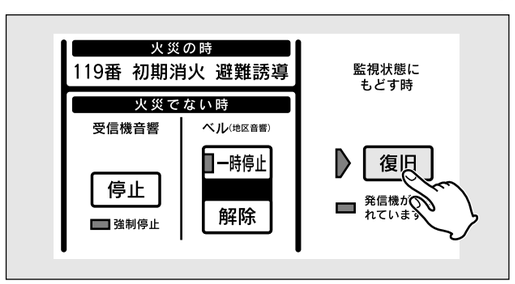
火災のとき

火災のとき

2 火災の場合は……

●119番に通報した後、避難誘導や初期消火など適切な処置をしてください。

3 火災鎮火後、復旧スイッチを押して通常の状態に戻します。



●防火戸用ロックがある場合は、防火戸用ロックをリセットしてください。(19ページ参照)

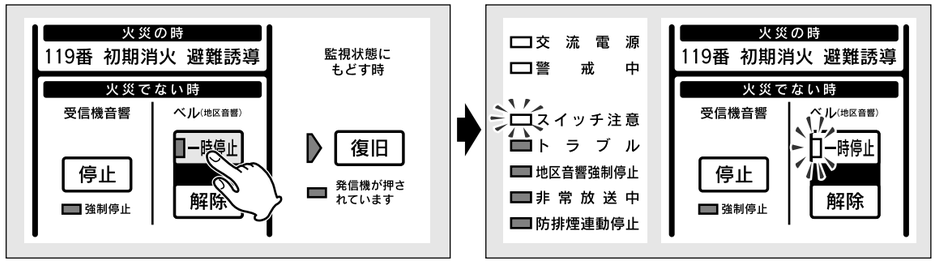
火災でないとき

■感知器は火災でないときでも作動することがあります。

煙感知器 水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。
熱感知器 ストーブなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変形すると作動することがあります。

3 ベル(地区音響)一時停止スイッチを押して、地区音響を止める。

●スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が点滅します。



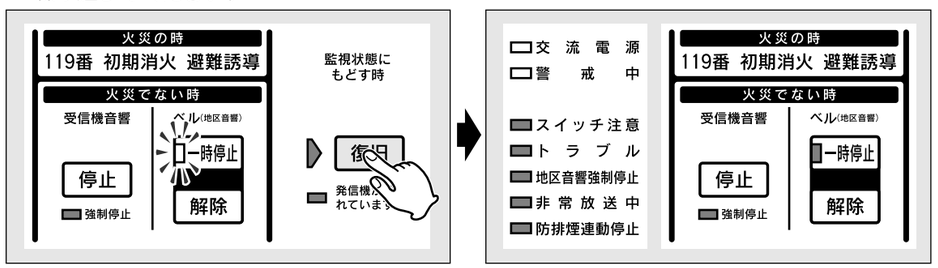
(注) ●スイッチ内のランプとスイッチ注意灯は、自動解除時間(TA)(約2分間・約4分間・約6分間・約8分間)経過後に消灯し、地区音響が再び鳴動します。
(自動解除時間(TA)の設定については、施工説明書(3ページ)を参照してください。)

4 地区灯の点灯している警戒場所で、次の状況を確かめ処置する。

状況確認	処置
感知器が作動していないか？ 確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。	作動した感知器から煙または熱を取り去ってください。
発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？ (発信機灯が点滅しています。)	発信機の押ボタンを元に戻してください。

5 復旧スイッチを押し、地区灯と火災灯が消えるか確かめます。

●ベル(地区音響)一時停止スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が消灯します。
●感知器の確認灯・ガイダンス表示(右矢印)は消灯します。
※地区灯・ガイダンス表示(現場確認灯)・火災灯が消えない場合はもう一度 4 · 5 の手順を繰り返してください。



●防火戸用ロックがある場合は、防火戸用ロックをリセットしてください。(19ページ参照)

6 通常の監視状態に戻ります。

※地区灯・ガイダンス表示(現場確認灯)・火災灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

6.受信機が警報した場合

■付属設備の作動について

◎付属設備がある場合の火災警報時の作動は、次のようになります。
あらかじめ、どのような付属設備が設置されているか確認してください。

【副受信機】

●受信機の火災表示とともに副受信機の地区灯が点灯して、ブザーが鳴ります。

【消火栓】

●発信機の押ボタンまたは消火栓始動用押ボタンが押された場合は、消火栓が作動し、受信機の消火栓灯が点滅します。

【非常放送設備】

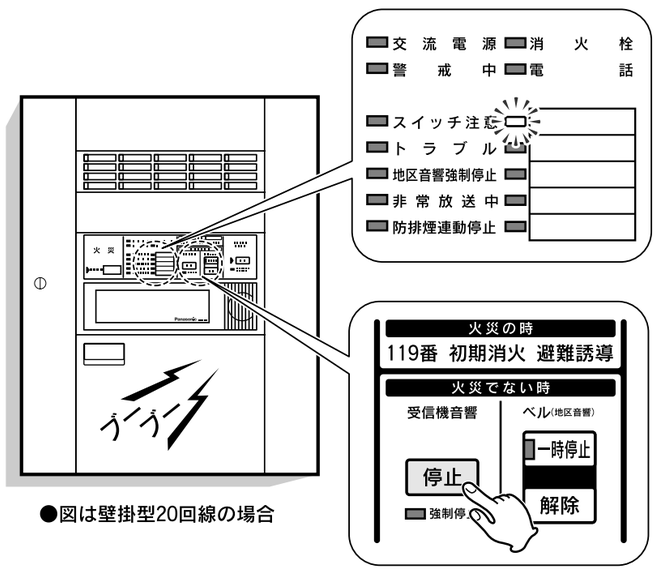
●火災警報時に非常放送設備のマイクスイッチを操作すると、非常放送が明瞭に聞こえるよう、受信機に接続されている地区音響（ベルなど）は自動的に止まります。
受信機の非常放送中灯が点滅します。

【非常放送設備（音声警報機能付）】

●受信機の火災表示とともに非常放送設備の音声警報が作動します。

■諸警報時の対処方法

●諸警報音響（ブーブー）が鳴ったら次の処置をしてください



●図は壁掛型20回線の場合

❶諸警報表示部の点灯位置によって、異常内容を確かめる。

❷受信機音響停止スイッチを押し、諸警報音響を止める。

❸異常が起きた設備の状況を確認し、施工店または点検契約店へ連絡してください。

7.電話機の使い方

注 ●電話の呼び出しがない状態では、受信機の電話ジャックにプラグを差し込まないでください。（呼出音が鳴動しません。）
●この電話機では、消防署への通報はできません。

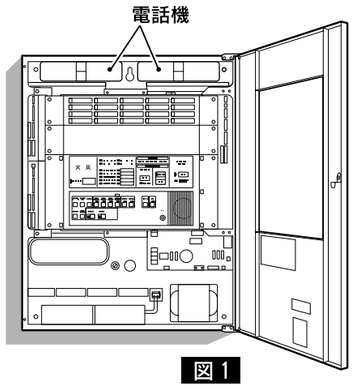


図1

●図は壁掛型20回線の場合

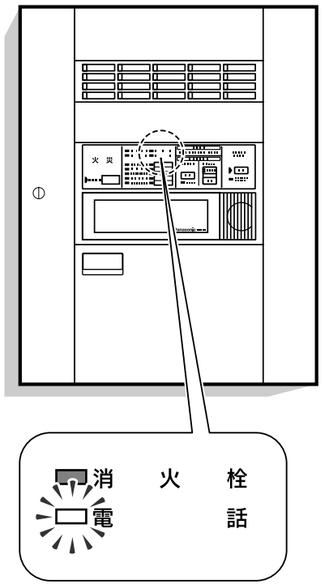


図2

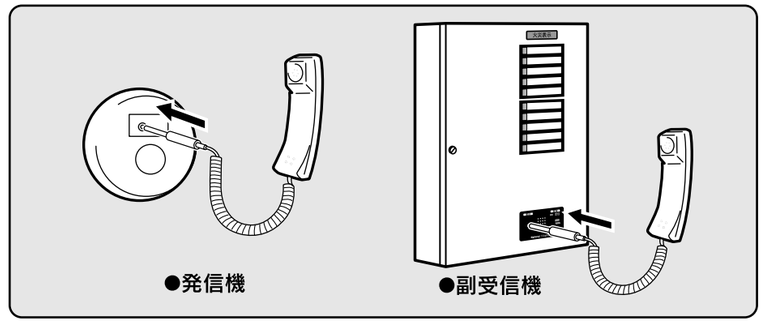
■火災状況の確認などの連絡ができます

●電話機の使い方

受信機と発信機間または受信機と副受信機間で、火災状況の確認など電話連絡ができます。

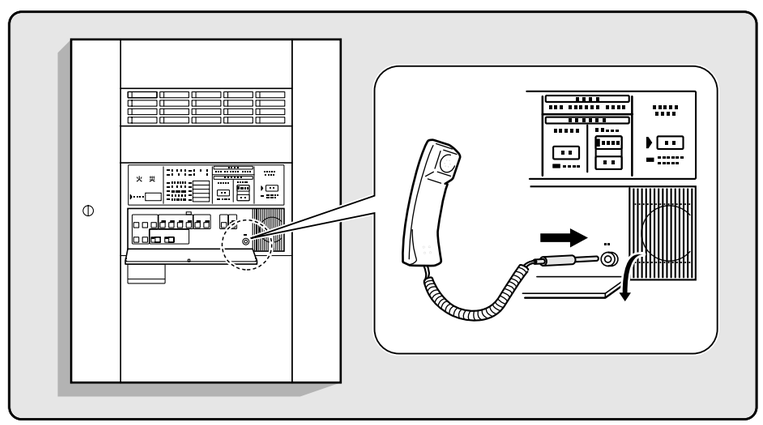
❶ **電話機は本体内に収納されているか（図1参照）、収納袋（別売）に収納され受信機の近くに吊り下げられています。**

❷ **電話機のプラグを、発信機または副受信機の電話ジャックに差し込む。**



❸ **受信機の電話音響が自動的に鳴り、電話の呼び出しを知らせる。**
●電話灯が点滅します。 図2参照

❹ **点検用スイッチカバーをあけ、電話ジャックにプラグを差し込めば、そのまま通話できる。**
●電話音響は自動的に止まります。

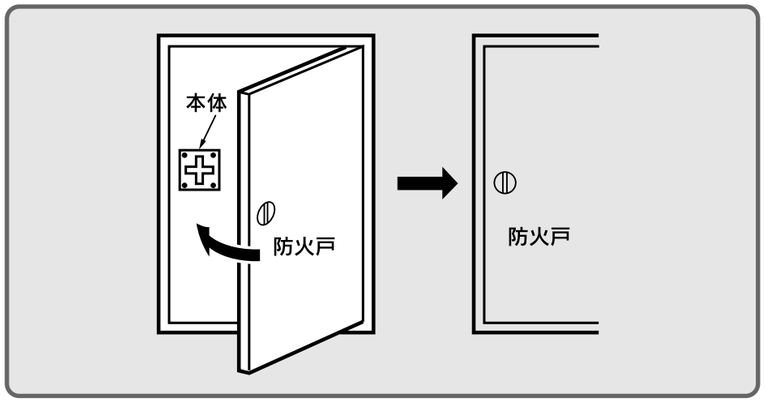


8.防火戸用ロックのリセット方法

●復旧スイッチを押した後、防火戸用ロックをリセットしてください。

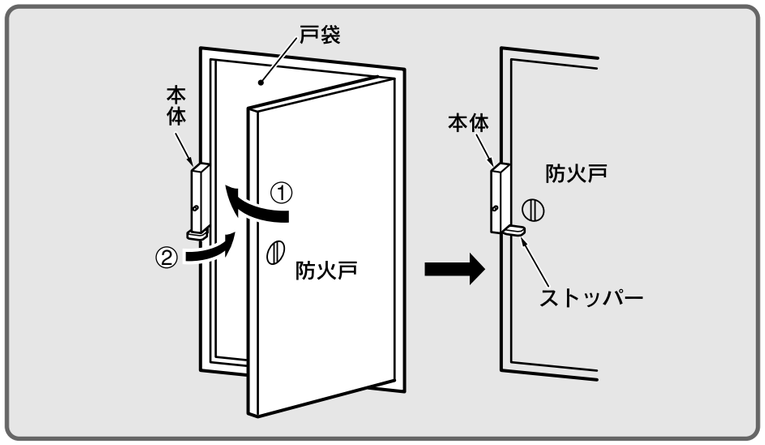
■キャッチロック

●防火戸を本体に押しつけることによりリセットができます。



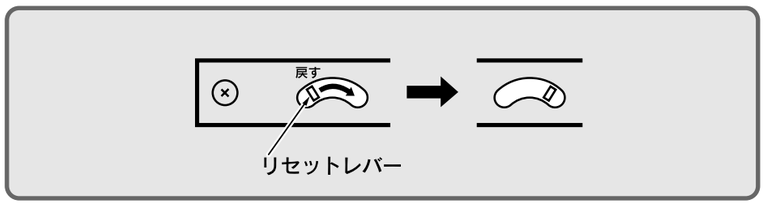
■露出型

●防火戸を戸袋に納め、ストッパーを元の位置まで回転させるとリセットができます。



■アーム型

●戸袋上枠に付いている本体のリセットレバーを時計方向に戻すとリセットができます。



9.日常点検

⚠注 意

●日常、次の点検を行ってください。
緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

受信機	1．「4.平常時の受信機の状態」に保たれているか？（12ページ参照） 2．近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？
感知器	1．変形、割れなどがないか？ 2．ペンキなどで塗装されていないか？ 3．ビニールテープなどが貼り付けられていないか？ 4．煙感知器の場合、クモの巣などがついていないか？ 5．下にストーブなどの熱源が置かれていないか？ 6．火災の感知を妨げる障害物がないか？ 7．下に多量に煙の発するものを使用していないか？ 8．空気管が切れたり、つぶれたりしていないか？
発信機	1．変形、損傷などがないか？ 2．近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？
表示灯	1．ランプが消えていないか？ 2．カバーの割れ、亀裂はないか？
地区ベル	1．変形、損傷などがないか？
防火戸用ロック	1．損傷していないか？ 2．防火戸が閉じる範囲内に障害物が置かれていないか？

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

10.異常時の点検・処置

⚠警告

必ず行う

●この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。
異常を放置すると火災時に警報がでないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。

状　態	点　検	処　置
交流電源灯が消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入」側にする。
交流電源灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。		
火災でないのに警報動作をする。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。
	熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？	熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。
	発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？（発信機灯が点滅していないか？）	発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押す。
	どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認しましたか？	地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止状態にしてください。（36ページ参照） 注 **●スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯し、約1分間隔でピー音が鳴ります。この状態のままでは、正常に警報動作を行うことができません。必ず施工店または点検契約店に連絡してください。**
スイッチ注意灯が点滅している。	ベル（地区音響）一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していないか？	●ベル（地区音響）一時停止解除スイッチを押す。 ●ベル（地区音響）一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

※印はトラブル音響設定を「鳴動」側に設定してある場合、音が鳴ります。（施工説明書（2・3ページ）を参照してください。）

状　態	点　検	処　置
交流電源灯が消灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切（OFF）」側になっていないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入（ON）」側にする。
	交流一次側ヒューズ（F1・F2）が切れていないか？	ヒューズ（F1・F2）を交換する。
	電源第一系統ヒューズ（F3）が切れていないか？	ヒューズ（F3）を交換する。
警戒中灯が消灯している。	試験復旧スイッチ内の赤色ランプが点灯していないか？	試験復旧スイッチを押す。
	受信機音響強制停止灯が点滅していないか？	受信機音響強制停止状態を解除してください。（36ページ参照）
	地区音響強制停止灯が点滅していないか？	地区音響強制停止状態を解除してください。（36ページ参照）
火災でないのに警報動作する。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？	配線を直す、感知器を確認する。
	火災以外の原因はないか？	日常点検をする。（20ページ参照）
火災復旧状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器または発信機が作動状態になっていないか？	●感知器から熱または煙を取り去る。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。
	発信機灯が点滅していないか？	発信機の押ボタンを元に戻す。
非常放送中灯が点滅している。	非常放送地区音響端子（EB＋・EB－）の配線が短絡していないか？	配線を直す。
操作表示部の交流電源灯と警戒中灯以外のすべてのランプが点灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切（OFF）」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入（ON）」側にする。
	受信機内の交流電源スイッチが「切（OFF）」側になっていないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入（ON）」側にする。
	交流一次側ヒューズ（F1・F2）が切れていないか？	ヒューズ（F1・F2）を交換する。
	交流一次の配線が断線していないか？	配線を直す。
	停電などにより交流電源が切れていないか？	停電状態が復電するまで待つ。
※トラブル灯が点滅し、音声警報が鳴動している。	トラブル確認操作（37ページ）により、トラブル内容・発生場所を確認する。	38・39ページの該当項目の点検・処置を行う。
表示灯が消灯している。	表示灯二次側ヒューズ（F5）が切れていないか？	ヒューズ（F5）を交換する。
操作表示部の交流電源灯以外のすべてのランプが消灯している。	内部ユニットのポーリング灯が点滅していないか？	新しい電源ユニットを交換する。（44ページ参照）
	内部ユニットのハーネスがはずれていないか？または、はずれかかっていないか？	電源を切り（電池もはずす）、ハーネスを接続したあと、再度、電源を入れる。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯している。	副受信機電源（I＋・I－）が16V以上あるか？	新しい電源ユニットと交換する。（44ページ参照）
L-C配線の終端抵抗器をはずしても断線表示しない。	該当回線があき回線登録されていないか？	指定の終端抵抗器（BV9840010）を接続した状態であき回線登録を再度、行う。（施工説明書（2・3ページ）参照）
	該当回線の回線種別が諸警報回線に設定されていないか？	一斉試験の「全回線火災表示試験」で回線選択表示窓に表示するコードで回線種別を確認する。（31・32ページ参照）（回線種別が諸警報回線の場合は断線表示はしません。）

MEMO

もくじ

1.各部のなまえとはたらき ―― 25～28

壁掛型 〔操作表示部〕
●試験・点検用スイッチ……25～26

自立型 〔操作表示部〕
●試験・点検用スイッチ……27～28

2.点検のしかた ―― 29～40

●点検するまえに……29
●火災試験の方法……29～30
●一斉試験の方法……31～32
●電池試験と電池の電圧測定方法……32
●防排煙個別起動制御の方法……33
●防排煙個別復帰制御の方法……34
●差動式分布型感知器（空気管式）の作動継続時間の測定方法……35
●受信機音響強制停止状態について……36
●地区音響強制停止状態について……36
●定期試験について……37
●トラブル確認の方法……37～39
●発報/操作履歴の確認方法……40～42

3.部品などの交換方法 ―― 43～45

●受信機の地区ラベルの交換 壁掛型 自立型……43
●受信機の電源ユニットの交換……44
●受信機の電池の交換……44
●諸警報表示部について……44
●受信機のヒューズの交換……45
●感知器・表示灯について……45

4.内部回路図 ―― 46～48

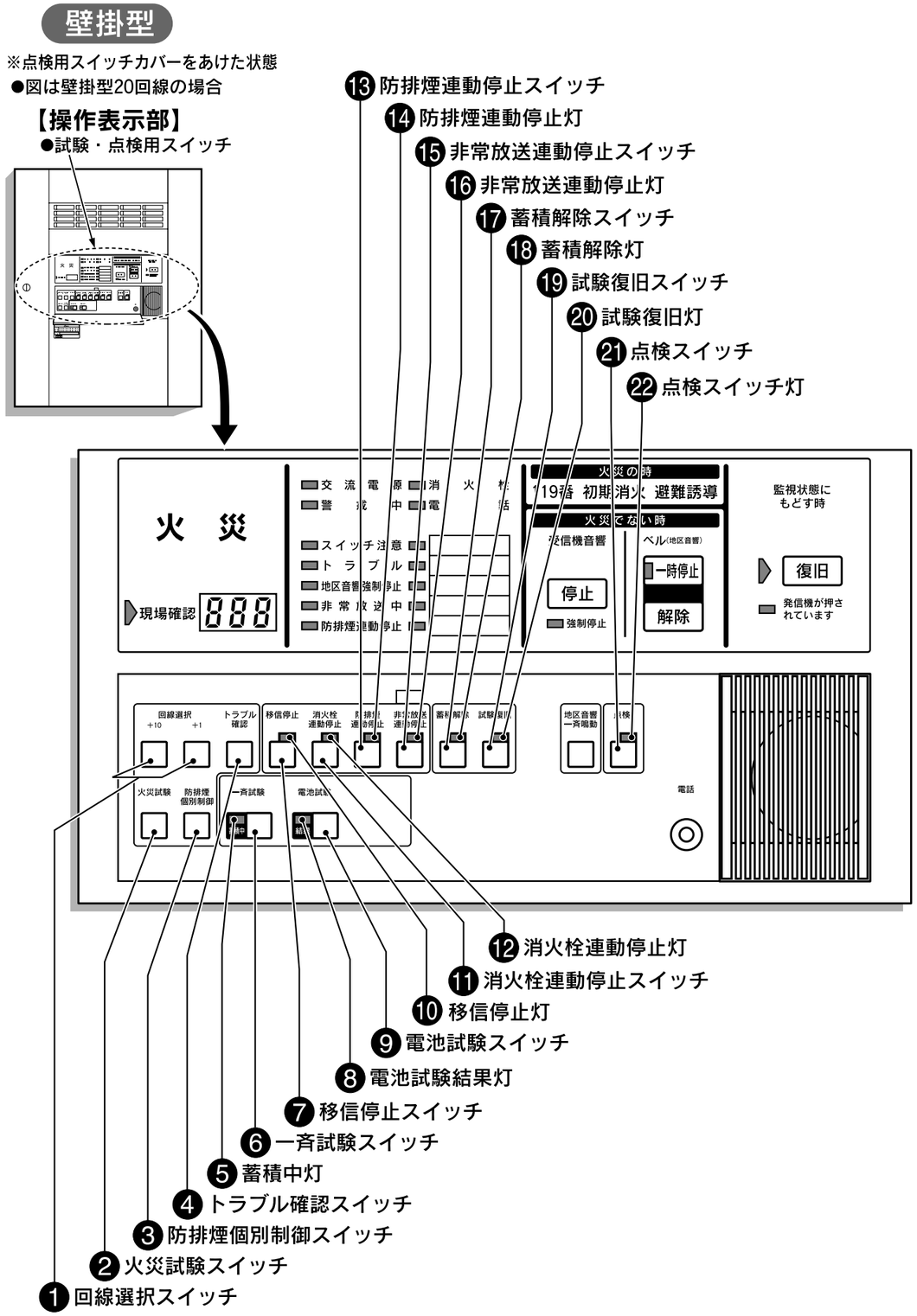
5.定格・仕様 ―― 49～50

●壁掛型の場合……49
●自立型の場合……50

1.各部のなまえとはたらき

壁掛型

※点検用スイッチカバーをあけた状態
●図は壁掛型20回線の場合



❶回線選択スイッチ
火災試験・防排煙制御の回線選択時に使用します。

❷火災試験スイッチ
各回線ごとの火災試験を行うときに使います。
（30ページ参照）

❸防排煙個別制御スイッチ
各回線ごとの防排煙制御を行うときに使います。
（33・34ページ参照）

❹トラブル確認スイッチ
押すとトラブル確認状態となり、回線選択表示窓にトラブル情報を表示します。（37ページ参照）

❺蓄積中灯（赤または緑）
蓄積時間測定試験時、または火災信号蓄積中に点灯します。
（31ページ参照）

❻一斉試験スイッチ
押すと全回線火災表示試験・防排煙作動表示試験・使用回線表示試験・ランプ表示試験・蓄積時間測定試験が順次自動的に行われます。（31ページ参照）

❼移信停止スイッチ
押すと火災代表移信接点（Fc1-Fa1, Fb1）（Fc2-Fa2, Fb2）の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても誘導灯などは作動しません。

❽電池試験結果灯
試験開始時に赤・緑の両方が点滅し、結果が「良」の場合は緑点灯・「不良」の場合は赤点灯で、電池試験の結果を表示します。

❾電池試験スイッチ
押すと自動的に電池試験を行います。
試験結果は電池試験結果灯に表示します。
●テスターなどで電圧を測定する場合は受信機内部の電圧測定用の端子を利用します。（32ページ参照）

❿移信停止灯（赤）
移信停止スイッチが押されているときに点滅します。

⓫消火栓連動停止スイッチ
押すと発信機を押しても消火栓は連動しません。

⓬消火栓連動停止灯（赤）
消火栓連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

⓭防排煙連動停止スイッチ
押すと感知器が作動しても接続された防火戸などは連動しません。

⓮防排煙連動停止灯（赤）
防排煙連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

⓯非常放送連動停止スイッチ
押すと感知器が作動しても接続された非常放送設備は連動しません。
非常放送設備への無電圧接点（EA1,…EAn,…EF-EC）の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても非常放送の音声警報は鳴動しません。

⓰非常放送連動停止灯（赤）
非常放送連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

⓱蓄積解除スイッチ
押すと蓄積機能が解除されます。

⓲蓄積解除灯（赤）
蓄積解除スイッチが押されているときに点滅します。

⓳試験復旧スイッチ
押すと感知器の作動試験時に、受信機作動後、約5秒ごとに感知器などを強制的に自動復旧させます。
警戒中灯は消灯します。
光電式スポット型感知器（2信号）の加煙試験を行う場合は、試験復旧状態にしないでください。
光電式スポット型感知器3種の発報確認ができなくなります。

⓴試験復旧灯（赤）
試験復旧スイッチが押されているときに点滅します。

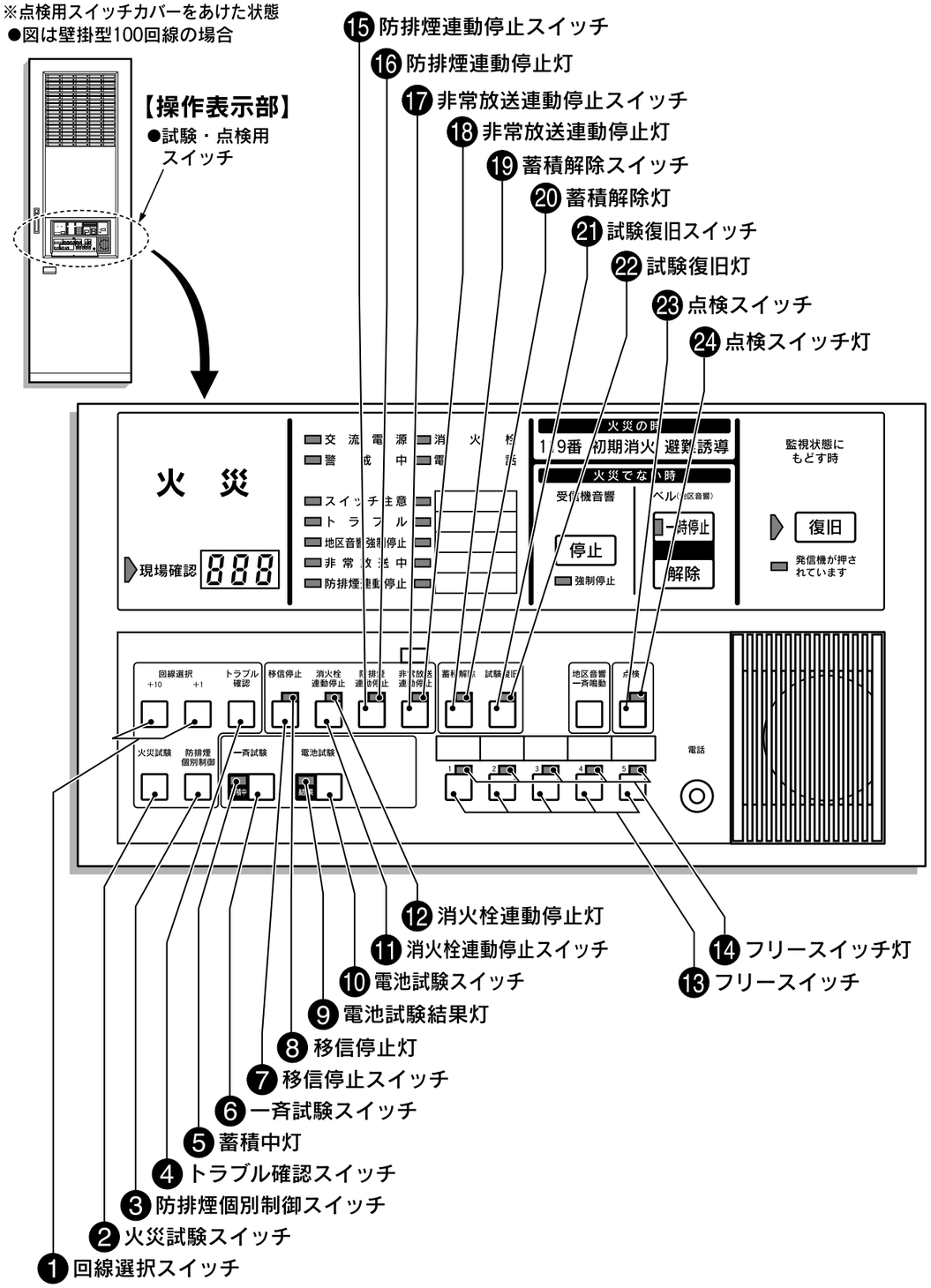
㉑点検スイッチ
受信機音響強制停止状態（36ページ参照）・
地区音響強制停止状態（36ページ参照）・
発報/操作履歴の確認方法（40ページ参照）
を行うときに使います。

㉒点検スイッチ灯（赤）
点検スイッチが3秒以上押されているときに点滅します。

1.各部のなまえとはたらき

自立型

※点検用スイッチカバーをあけた状態
●図は壁掛型100回線の場合



1 回線選択スイッチ
火災試験・防排煙制御の回線選択時に使用します。

2 火災試験スイッチ
各回線ごとの火災試験を行うときに使います。
（30ページ参照）

3 防排煙個別制御スイッチ
各回線ごとの防排煙制御を行うときに使います。
（33・34ページ参照）

4 トラブル確認スイッチ
押すとトラブル確認状態となり、回線選択表示窓にトラブル情報を表示します。（37ページ参照）

5 蓄積中灯（赤または緑）
蓄積時間測定試験時、または信号試験蓄積中に点灯します。（31ページ参照）

6 一斉試験スイッチ
押すと全回線火災表示試験・防排煙作動表示試験・使用回線表示試験・ランプ表示試験・蓄積時間測定試験が順次自動的に行われます。（31ページ参照）

7 移信停止スイッチ
押すと火災代表移信接点（Fc1-Fa1, Fb1）（Fc2-Fa2, Fb2）の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても誘導灯などは作動しません。

8 移信停止灯（赤）
移信停止スイッチが押されているときに点滅します。

9 電池試験結果灯
試験開始時に赤・緑の両方が点滅し、結果が「良」の場合は緑点灯・「不良」の場合は赤点灯で、電池試験の結果を表示します。

10 電池試験スイッチ
押すと自動的に電池試験を行います。
試験結果は電池試験結果灯に表示します。
●テスターなどで電圧を測定する場合は受信機内部の電圧測定用の端子を利用します。（32ページ参照）

11 消火栓連動停止スイッチ
押すと発信機を押しても消火栓は連動しません。

12 消火栓連動停止灯（赤）
消火栓連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

13 フリースイッチ
設定により排煙機連動停止や空調機連動停止などの移信出力の設定が可能です。
（詳しくは設定マニュアル（35〜38ページ）を参照してください。）

14 フリースイッチ灯（赤）
フリースイッチが押されているときに点滅します。

15 防排煙連動停止スイッチ
押すと感知器が作動しても接続された防火戸などは連動しません。

16 防排煙連動停止灯（赤）
防排煙連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

17 非常放送連動停止スイッチ
押すと感知器が作動しても接続された非常放送設備は連動しません。
非常放送設備への無電圧接点（EA1,…EAn,…EF-EC）の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても非常放送の音声警報は鳴動しません。

18 非常放送連動停止灯（赤）
非常放送連動停止スイッチが押されているときに点滅します。

19 蓄積解除スイッチ
押すと蓄積機能が解除されます。

20 蓄積解除灯（赤）
蓄積解除スイッチが押されているときに点滅します。

21 試験復旧スイッチ
押すと感知器の作動試験時に、受信機作動後、約5秒ごとに感知器などを強制的に自動復旧させます。
警戒中灯は消灯します。
光電式スポット型感知器（2信号）の加煙試験を行う場合は、試験復旧状態にしないでください。
光電式スポット型感知器3種の発報確認ができなくなります。

22 試験復旧灯（赤）
試験復旧スイッチが押されているときに点滅します。

23 点検スイッチ
受信機音響強制停止状態（36ページ参照）・
地区音響強制停止状態（36ページ参照）・
発報/操作履歴の確認方法（40ページ参照）
を行うときに使います。

24 点検スイッチ灯（赤）
点検スイッチが3秒以上押されているときに点滅します。

2.点検のしかた

点検するまえに

⚠注意

必ず行う

●点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作してください。
不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
●点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じてください。
引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

火災試験の方法

●この試験は、受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器・発信機などの機器も含めて試験してください。

⚠警告

必ず行う

●試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時、正常な火災警報動作をしません。

■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 試験時、この受信機と接続されている機器および設備を連動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押してください。

注 ●火災代表移信をしないときは、「移信停止スイッチ」を押してしてください。
（スイッチ注意灯・移信停止灯が点滅します。）
火災代表移信接点（Fc1−Fa1, Fb1）（Fc2−Fa2, Fb2）が連動しません。
●消火栓連動をしないときは、「消火栓連動停止スイッチ」を押してください。
（スイッチ注意灯・消火栓連動停止灯が点滅します。）
無電圧接点（H1−H2）が連動しません。
●防排煙連動をしないときは、「防排煙連動停止スイッチ」を押してください。
（スイッチ注意灯・防排煙連動停止灯が点滅します。）
DC−Dm…Dnが連動しません。
●受信機の音響を鳴動させない場合は、受信機音響強制停止状態にしてください。（36ページ参照）
（スイッチ注意灯・受信機音響強制停止灯が点滅します。）
●地区音響を鳴動させない場合は、地区音響強制停止状態にしてください。（36ページ参照）
（スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅します。）
BC−BL+, B1…Bnが連動しません。（約1分間隔でピー音が鳴ります。）
●非常放送連動をしないときは、「非常放送連動停止スイッチ」を押してください。
（スイッチ注意灯・非常放送連動停止灯が点滅します。）
無電圧接点（EA1, …EAn, EF−EC）が連動しません。

次のページに続く

連続して行う場合

2 回線選択スイッチを押し、火災試験を行う回線を選択する。

3 回線選択表示窓に表示される。
●選択した回線の地区灯が点滅します。

4 回線を選択したあと、火災試験スイッチを押す。
●1報めの火災試験のとき、蓄積中灯（赤）が点灯しますので、この間（約7秒間）押し続けてください。（押している間、ピッピッピッ音が鳴ります。）
次の回線からは火災試験スイッチを押すだけで **5** の動作に移行します。

5 1）火災灯が点滅し、現場確認灯が点滅する。
●火災灯・現場確認灯は、復旧スイッチを押すまで点滅します。
2）選択した回線の地区灯が点灯する。

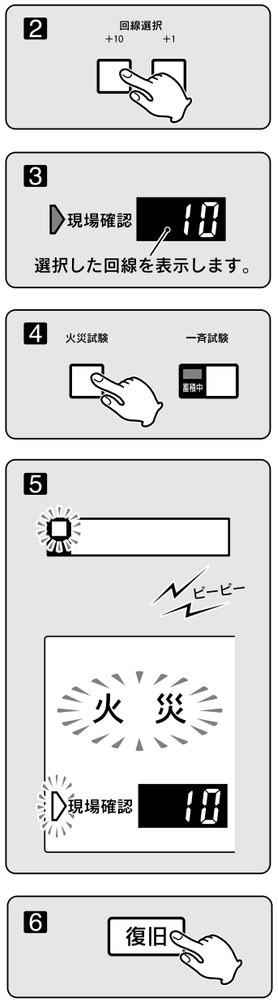
6 復旧スイッチを押して、警報を止める。

7 回線選択スイッチを押し、回線選択表示窓内の回線選択数字が最大値（回線数）と「1」の間にくると、数字が消えます。
（地区灯も消えます。）
この位置で、回線選択スイッチを止めてください。
（回線選択状態のまま放置した場合でも、約3分後に数字が消えます。）

8 **1** で連動停止・音響停止させたスイッチを平常時の状態に戻してください。（スイッチ内のランプは消灯します。）

注 ●地区音響を止めた場合は、地区音響強制停止状態を解除してください。
（36ページ参照）（地区音響強制停止灯が消灯します。）
●受信機の音響を止めた場合は、受信機音響強制停止状態にしてください。
（36ページ参照）（受信機音響強制停止灯が消灯します。）

9 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻ります。



試験中に火災を受信した場合

●試験中の回線が火災を受信した場合、**8** の操作のあとに火災警報をします。
●試験中以外の回線の地区灯が点灯した場合、その回線で火災発生の可能性があります。
復旧操作後の「火災」表示で火災の確認をしてください。

2.点検のしかた

一斉試験の方法

●この試験は、1回線めから順次、自動的に受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器・発信機などの機器も含めて試験してください。

⚠警告　必ず行う　●試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時、正常な火災警報動作をしません。

■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 一斉試験スイッチを押してください。
- ●「全回線火災表示試験」「防排煙作動表示試験」「使用回線表示試験」「ランプ表示試験」「蓄積時間測定試験」「登録データ異常チェック」を順次、自動的に行います。

全回線火災表示試験

2 地区灯（上部灯）が回線ごとに順次点灯することを確認してください。
- ●順次、点灯するごとに火災灯およびガイダンス表示（現場確認灯）が点灯し、主音響が鳴動することを確認してください。
- ●回線種別を諸警報回線、スプリンクラー2回線・3回線に設定している場合は、作動音響が鳴動することを確認してください。
- ●地区音響は鳴動しません。
- ●回線選択表示窓に順次、回線種別を表示します。（詳しくは回線種別表示について（32ページ）を参照してください。）

防排煙作動表示試験（地区窓が黄色の回線）

3 地区灯（下部灯）が回線ごとに順次点灯することを確認してください。

使用回線表示試験

4 終端抵抗器が接続されている回線の地区灯（上部灯）だけが点灯することを確認してください。（約10秒間）

注 ●回線種別を諸警報回線に設定している場合は、終端抵抗器が接続されていなくても、地区灯（上部灯）が点灯します。

ランプ表示試験

5 操作表示部のすべてのランプ、回線選択表示窓のすべての表示内容を表示することを確認してください。（約10秒間）

蓄積時間測定試験

6 1）蓄積中灯（赤）が点灯することを確認してください。
- ●ピッという音で、熱感知器および煙感知器の蓄積開始を知らせます。

2）5～10秒後、蓄積中灯の点灯が赤から緑に変わったことと、回線選択表示窓に数字が表示されることを確認してください。（約5秒間）
- ●ピッという音で、熱感知器の蓄積終了を知らせます。

3）55～60秒後、蓄積中灯が消灯したことと、表示部に数字が表示されることを確認してください。（約5秒間）
- ●ピッという音で、煙感知器の蓄積終了を知らせます。

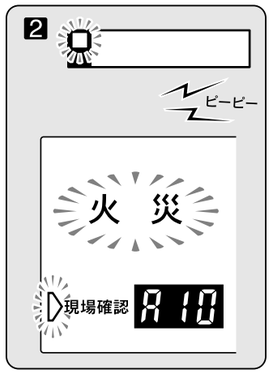
登録データ異常チェック

7 受信機内部で自動的に登録データの異常チェックをします。

注 ●トラブル灯が点滅した場合、トラブル確認の方法（37～39ページ）を参照に処置してください。

以上の確認で異常がなければ正常です。

8 平常時の監視状態に戻ります。



試験中に火災を受信した場合　●自動的に試験状態を解除し、ただちに火災警報します。

■回線種別表示について

回線選択表示窓の表示	回線種別の内容
A00	自火報回線（非蓄積）
A10	自火報回線（蓄積）
c10	スプリンクラー1回線
c20	スプリンクラー2回線
c30	スプリンクラー3回線
b00	諸警報回線（自己保持なし・作動音響なし）

回線選択表示窓の表示	回線種別の内容
b01	諸警報回線（自己保持なし・作動音響あり）
b10	諸警報回線（自己保持あり・作動音響なし）
b11	諸警報回線（自己保持あり・作動音響あり）
d00	防排煙回線（非蓄積）
d10	防排煙回線（蓄積）
F06 → 60秒表示します。（設定値を10で割り表示します。）	防排煙復帰回線

電池試験と電池の電圧測定方法

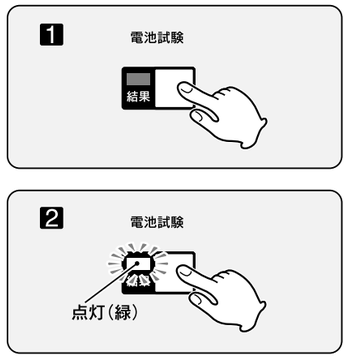
●この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。
電池の電圧を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

電池試験

1 電池試験スイッチを押す。
- ●電池試験結果灯が約5秒間、赤・緑とも点滅します。

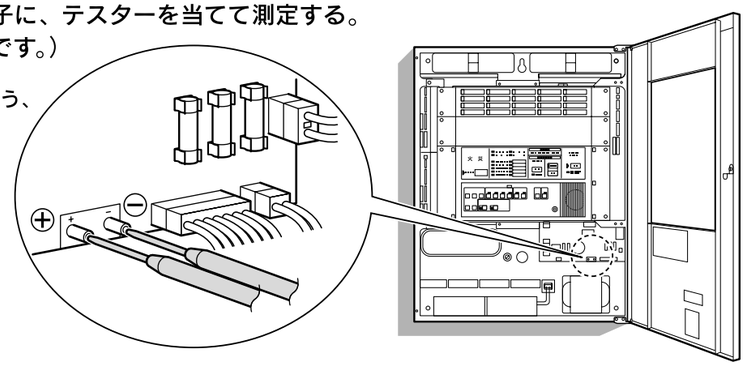
2 試験結果が、「良」の場合は電池試験結果灯が緑点灯、「不良」の場合は赤点灯します。
- ●「不良」の場合、電池を交換してください。（44ページ参照）



電圧測定

■電池試験スイッチを押し、赤・緑とも点滅している間に、本体内の電池電圧の端子に、テスターを当てて測定する。（20.4V以上あれば正常です。）

注 ●極性を間違えないよう、ご注意ください。



2.点検のしかた

防排煙個別起動制御の方法

●この試験は、各回線の防排煙機能が正常に働くかを試験します。

⚠警告

必ず行う

●試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時に正常な火災警報動作をしません。
●防火戸などを作動させた場合は試験終了後にリセットしてください。火災時に正常な動作をしません。

■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 回線選択スイッチを押し、防排煙個別起動制御を行う回線を選択する。

2 回線選択表示窓に回線番号が表示される。
●選択した回線の地区灯が点滅します。

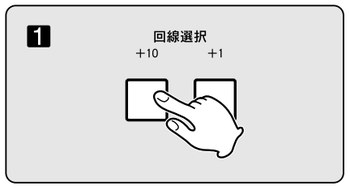
3 回線を選択したあと、防排煙個別制御スイッチを押す。
注 ●防排煙回線以外を選択するとピッピッピッ音（エラー音）が鳴ります。

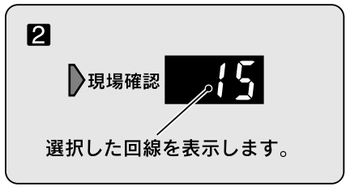
4 地区灯の下部が点灯する。
●防排煙側の選択した回線の防火戸などが作動し地区灯の下部が点灯します。
（点滅の場合は、防火戸などが未作動です。）

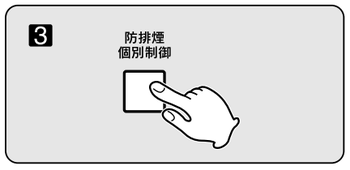
5 復旧スイッチを押す。

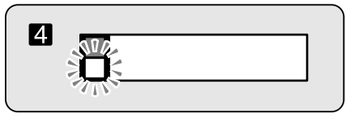
6 回線選択スイッチを押し、回線選択表示窓内の回線選択数字が最大値（回線数）と「1」の間にくると、数字が消えます。（地区灯も消えます。）
この位置で回線選択スイッチを止めてください。
〔回線選択状態のまま放置した場合でも、約3分後に数字が消えます。〕

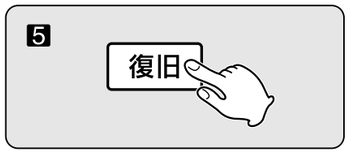
7 防火戸などをリセットする。
（19ページ参照）
●地区灯の下部が消灯したことを確認してください。











防排煙個別復帰制御の方法

●この試験は、各回線の防排煙機能が正常に働くかを試験します。

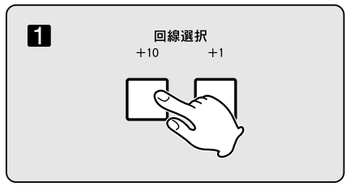
■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

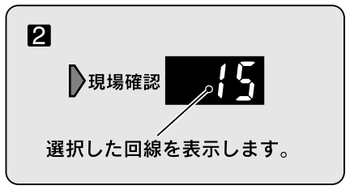
1 回線選択スイッチを押し、防排煙個別復帰制御を行う回線を選択する。

2 回線選択表示窓に回線番号が表示される。
●選択した回線の地区灯が点滅します。

3 回線を選択したあと、防排煙個別制御スイッチを押す。
●選択した回線の防排煙復帰制御出力が送出され、地区灯の下部が点滅します。
〔●復帰制御時間の設定は設定マニュアル（17・18ページ）を参照してください。
●回線種別が防排煙復帰回線を設定した回線の場合のみ、この動作を行います。
（詳しくは設定マニュアル（13・14ページ）を参照してください。）〕

4 復帰完了の確認は、選択した回線の場所に行き、確認してください。
●地区灯の下部は、復帰完了後、消灯します。





2.点検のしかた

差動式分布型感知器(空気管式)の作動継続時間の測定方法

●感知器が作動してから接点が開くまでの時間を測定する方法です。

⚠警告

必ず行う

●試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時、正常な火災警報動作をしません。

■テスターによる測定

■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 蓄積解除スイッチを押す。
●蓄積解除灯が点滅します。

2 試験復旧解除状態にする。
●試験復旧灯が消灯状態

3 地区音響強制停止状態にする。(36ページ参照)
●地区音響強制停止灯が点滅します。

4 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。

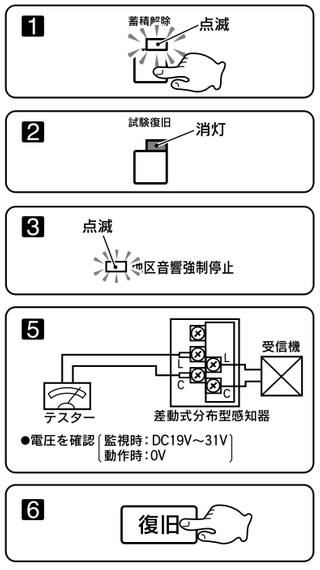
5 感知器のL-C端子間の電圧がOVになっている時間を測定する。

6 復旧スイッチを押して、警報を止める。

7 蓄積解除スイッチを再度、押す。
●蓄積解除灯が消灯します。

8 地区音響強制停止状態を解除する。(36ページ参照)
●地区音響強制停止灯は消灯します。

9 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻ります。



試験中に火災を受信した場合 ●試験中の回線が火災を受信した場合、**6**の操作のあとに火災警報します。

■地区音響鳴動による測定(簡易測定方法)

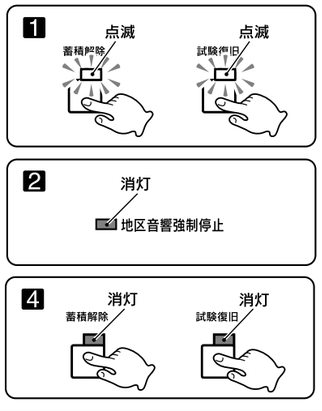
■以下の試験は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを押し、試験復旧状態にする。
●蓄積解除灯と試験復旧灯が点滅します。

2 地区音響強制停止状態が解除されているかを確認する。(36ページ参照)
●地区音響強制停止灯が消灯状態

3 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。
●このときの地区音響鳴動開始から終了の時間を測定してください。
ただし、測定中に自動復旧するため断続鳴動となります。
(例) ●断続鳴動回数が5回の場合、13秒×5回=65秒程度となります。
注 ●作動継続時間の範囲をはずれる場合は、「テスターによる測定(35ページ)」で再度、測定してください。

4 試験終了後、蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを再度、押す。
●蓄積解除灯と試験復旧灯が消灯します。



試験中に火災を受信した場合 ●試験中の回線が火災を受信した場合、**4**の操作のあとに火災警報します。

受信機音響強制停止状態について

●点検時、受信機からの主音響・諸警報音響・トラブル音響・防排煙作動音響を鳴動させない場合に設定します。

⚠警告

必ず行う

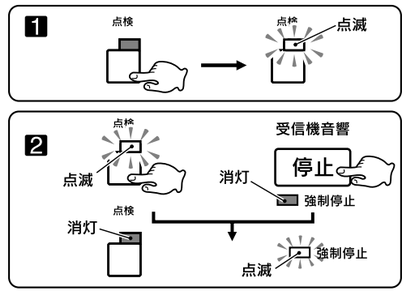
●操作終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時、正常な火災警報動作をしません。

■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 点検スイッチを3秒以上押し続ける。
●点検スイッチ灯が点滅します。

2 そのまま点検スイッチを押した状態で、受信機音響停止スイッチを押す。
●受信機音響強制停止灯が点滅します。
(点検スイッチと受信機音響停止スイッチを離してください。)
●点検スイッチ灯が消灯します。

3 受信機音響強制停止状態になります。



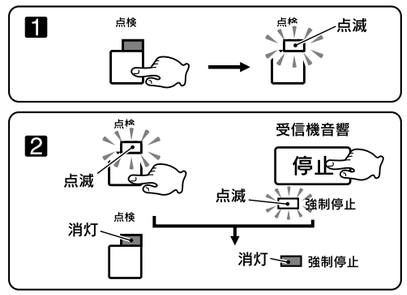
解除する場合

■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 点検スイッチを3秒以上押し続ける。
●点検スイッチ灯が点滅します。

2 そのまま点検スイッチを押した状態で、受信機音響停止スイッチを押す。
●受信機音響強制停止灯が消灯します。
(点検スイッチと受信機音響停止スイッチを離してください。)
●点検スイッチ灯が消灯します。

3 受信機音響強制停止状態が解除されます。



地区音響強制停止状態について

●点検時、地区音響を鳴動させない場合に設定します。

⚠警告

必ず行う

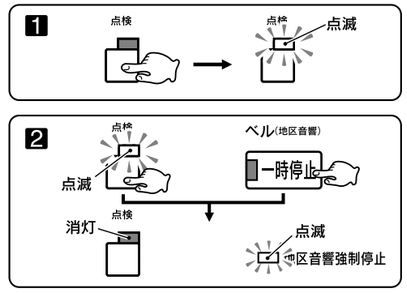
●操作終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。火災時、正常な火災警報動作をしません。

■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 点検スイッチを3秒以上押し続ける。
●点検スイッチ灯が点滅します。

2 そのまま点検スイッチを押した状態で、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押す。
●地区音響強制停止灯が点滅します。
(点検スイッチとベル(地区音響)一時停止スイッチを離してください。)
●点検スイッチ灯が消灯します。

3 地区音響強制停止状態になります。
●約1分間隔でピー音が鳴ります。



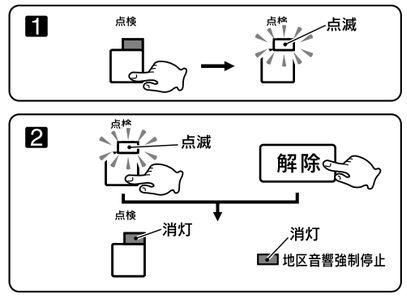
解除する場合

■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

1 点検スイッチを3秒以上押し続ける。
●点検スイッチ灯が点滅します。

2 そのまま点検スイッチを押した状態で、ベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押す。
●地区音響強制停止灯が消灯します。
(点検スイッチとベル(地区音響)一時停止解除スイッチを離してください。)
●点検スイッチ灯が消灯します。

3 地区音響強制停止状態が解除されます。



2. 点検のしかた

定期試験について

●この試験は受信機内の試験です。
●試験実行は約24時間に1回実施し、3回連続して試験不良の場合、トラブル灯が点滅し、トラブル表示します。
（トラブル発生時の点検・処置については、38・39ページを参照してください。）
●定期試験の内容は、「火災受信回路異常チェック」「登録データ異常チェック」です。

トラブル確認の方法

●この操作はトラブル灯が点滅し、音声警報が鳴動したとき、そのトラブルの発生回線・トラブル内容を確認するための操作です。

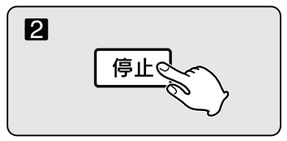
■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

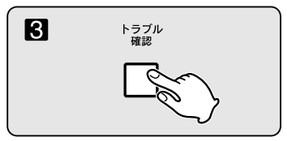
1 トラブルが発生すると
●トラブル灯が点滅し、音声警報音（「ピー　トラブルが発生しました。」）が鳴ります。
〔音声警報音は、トラブル音響の鳴動設定によって鳴らない場合があります。
（詳しくは設定マニュアル（7・8ページ）を参照してください。）〕

2 受信機音響停止スイッチを押す。
●音声警報音が止まります。

3 トラブル確認スイッチを押す。

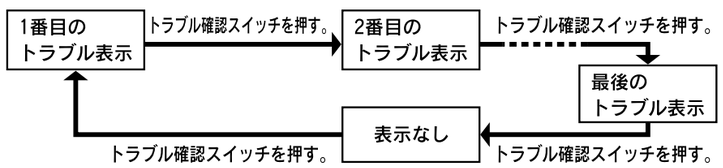
4 回線選択表示窓にトラブルコードを表示し、トラブル詳細を音声メッセージで知らせます。
●図のトラブルコードは、火災試験および一斉試験の全回線火災表示試験が正常にできないときの表示です。
〔トラブル詳細の音声メッセージは、トラブル音響の鳴動設定が「非鳴動」側の場合は鳴りません。
（詳しくは設定マニュアル（7・8ページ）を参照してください。）〕





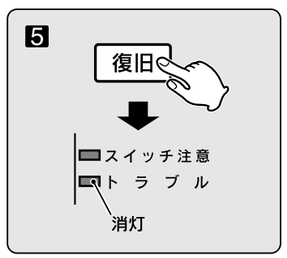
注 **●トラブル詳細の音声メッセージがでない、トラブルコードもあります。**
（詳しくはトラブル発生時の点検・処置（38・39ページ）を参照してください。）

■トラブルが複数箇所で発生している場合は、再度、トラブル確認スイッチを押してください。
●トラブル確認スイッチを押すたびに次のトラブルコードに変わります。



注 **●約3分間操作しないと、回線選択表示窓の表示は自動的に消灯します。**
●感知器配線が異常の場合、トラブル表示が完全に切り替わってから表示内容を確認してください。

5 「トラブル発生時の点検・処置」（38・39ページ）にしたがってトラブルを復旧させる。
●トラブルコード E05 が発生しているときは復旧スイッチを押してください。
●トラブルが復旧していれば回線選択表示窓のトラブルコード・トラブル灯が消灯します。



6 トラブル灯が消灯するまで 3〜5の手順を繰り返す。

■トラブル発生時の点検・処置

回線選択表示窓の表示（トラブルコード）	トラブル詳細の音声メッセージ	点　検	処　置
10 異常がある回線を表示し点滅させる。	感知器配線が異常です。（女性の声）	感知器配線が断線していないか？	配線を直す。
		感知器配線に終端抵抗器が接続されているか？	指定の終端抵抗器（BV9840010）を接続する。
		指定外の終端抵抗器が接続されていないか？	指定の終端抵抗器（BV9840010）と交換する。
		使用していない回線のあき回線登録がされているか？	受信機内のあき回線登録スイッチであき回線の再登録を行う。
E01	バッテリーが異常です。（女性の声）	電池が接続されているか？	受信機内の電池を接続する。（44ページ参照）
		電池ヒューズ（F6）が切れていないか？	ヒューズ（F6）を交換する。
		電池試験を行い、電池試験結果が「良」となるか？	新しい電池と交換する。（44ページ参照）
E02	非常放送配線が異常です。（女性の声）	非常放送地区音響停止端子（EB＋・EB－）の配線が断線していないか？	配線を直す。
		非常放送地区音響停止端子（EB＋・EB－）を使用していない場合、終端抵抗器が接続されているか？	非常放送地区音響停止端子に指定の終端抵抗器（BV9840010）を接続する。
E03	ヒューズが切れています。（女性の声）	発信機応答ヒューズ（FA）が切れていないか？	ヒューズ（FA）を交換する。
		地区音響ヒューズ（FB）が切れていないか？	ヒューズ（FB）を交換する。
		副受信機ヒューズ（FI）が切れていないか？	ヒューズ（FI）を交換する。
		防排煙制御ヒューズ（FD）が切れていないか？	ヒューズ（FD）を交換する。
E04	回路電圧が異常です。（女性の声）	交流電源スイッチが「切（OFF）」側の状態で電池の電圧が低下していないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入（ON）」側にする。
		副受信機電源（I＋・I－）が20.4V以上あるか？	受信機内部の電源回路が異常です。
		交流一次側ヒューズ（F1・F2）が切れていないか？	ヒューズ（F1・F2）を交換する。
		電源第二系統ヒューズ（F4）が切れていないか？	ヒューズ（F4）を交換する。
888	回路電圧が異常です。（女性の声）	副受信機電源（I＋・I－）が16V以上あるか？	新しい電源ユニットと交換する。（44ページ参照）
		交流電源スイッチが「切（OFF）」側の状態で電池の電圧が低下していないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入（ON）」側にする。

次のページに続く

2. 点検のしかた

回線選択表示窓の表示（トラブルコード）	トラブル詳細の音声メッセージ	点　検	処　置
E05	———	火災試験および一斉試験の全回線火災表示試験が正常にできるか？	受信機内部の火災受信回路が異常です。 ●火災試験および一斉試験の全回線火災表示試験で異常回路を調べる。 ●復旧スイッチを押すことにより、トラブル表示は消えますが、火災受信回路が異常な場合、定期試験により2～3日後、同じトラブルが発生します。
E10 ～ E19	———	内部ハーネスがはずれていないか？または、はずれかかっていないか？	電源を切り（電池もはずす）、内部ハーネスを接続したあと、再度、電源を入れる。
		内部のユニットのアドレスが正しく設定されているか？	アドレス設定を確認し、再度、電源を入れる。
E30	———	操作パネルへのフラットケーブルがはずれかかっていないか？	電源を切り（電池もはずす）、フラットケーブルを接続したあと、再度、電源を入れる。
E20 ～ E29	———	内部ユニットが正しいものと接続されているか？	受信機内部の回路が異常です。
E40	———	内部ハーネスがはずれていないか？または、はずれかかっていないか？	電源を切り（電池もはずす）、内部ハーネスを接続したあと、再度、電源を投入する。
		諸警報ユニットのアドレスが正しく設定されているか？	アドレス設定を確認し、再度、電源を投入する。
E51	———	現場調整設定などの登録途中に電源を切っていないか？	盤内ユニット登録を再度、行う。
E61	———	現場調整設定などの登録途中に電源を切っていないか？	※登録データ異常です。 現場調整設定の「回線種別設定」を再度、行う。
E62	———	現場調整設定などの登録途中に電源を切っていないか？	※登録データ異常です。 現場調整設定の「代表移信増設設定」「副受音響設定」「回線別移信出力設定」を再度、行う。
E63	———	現場調整設定などの登録途中に電源を切っていないか？	※登録データ異常です。 現場調整設定の 「感知器回線→防排煙制御回線設定」 「防排煙監視回線→防排煙制御回線設定」 「防排煙制御回線 →感知器回線/防排煙監視回線設定」 「防排煙作動音響設定」 「防排煙復帰制御時間設定」 を再度、行う。
E64	———	現場調整設定などの登録途中に電源を切っていないか？	※登録データ異常です。 現場調整設定の「地区音響鳴動設定」「地区音響一斉鳴動スイッチ操作による回線別移信一斉出力設定」を再度、行う。

※は設定マニュアルを参照してください。

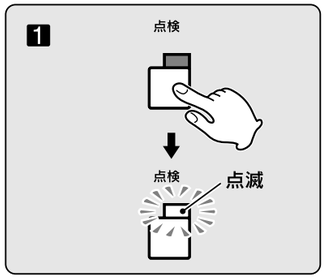
発報/操作履歴の確認方法

●この操作は、過去の受信機動作・操作内容を確認するための操作です。

■以下の操作は、点検用スイッチカバーをあけてください。

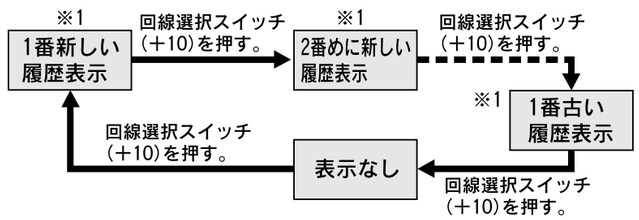
1 点検スイッチを3秒以上押し続ける。
- ●点検スイッチ灯が点滅します。

2 そのままスイッチを押した状態で、回線選択スイッチ（＋10）を押す。
- ●履歴確認モードになります。
  （点検スイッチと回線選択スイッチ（＋10）を離してください。）
- ●点検スイッチ灯が消灯します。

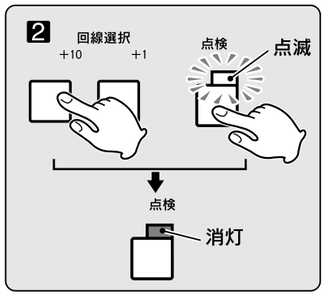


3 回線選択表示窓に履歴コードを表示します。
（詳しくは履歴表示の確認（41ページ）を参照してください。）

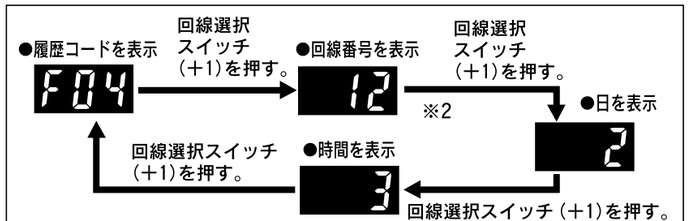
●回線選択スイッチ（＋10）を押すたびに次の履歴コードに変わります。



●※1 履歴表示が表示されているときに、回線選択スイッチ（＋1）を押すと履歴の詳細を確認することができます。



例 ●2日と3時間前（約51時間前）に感知器回線の12回線が蓄積開始した場合



●※2 履歴コードの内容により、回線番号の表示・on、oFF の表示・--- の表示をする場合があります。

注 ●約3分間操作しないと、回線選択表示窓の表示は自動的に消灯し、履歴確認モードが解除されます。

4 「履歴表示の確認（41ページ）」にしたがって、履歴を確認する。

注 ●履歴表示中の日時は、履歴確認モードに入った時点から何日と何時間前に発生したかを示します。
- ●履歴確認モード中の時間経過は考慮されません。
- ●履歴表示中にイベントが発生した場合は、再度、履歴確認モードに入り直すことによりイベントが表示されます。
- ●日時の表示が 888 の場合は、365日（1年）以上前のイベントを意味します。
- ●記憶するイベント数は最新50件までです。
- ●イベントを消去したい場合、回線選択スイッチの＋10と＋1を同時に押してください。

5 **3**・**4** の手順を繰り返し、履歴内容を確認してください。

6 再度 **1**・**2** の手順を行うことにより、履歴確認モードが解除されます。

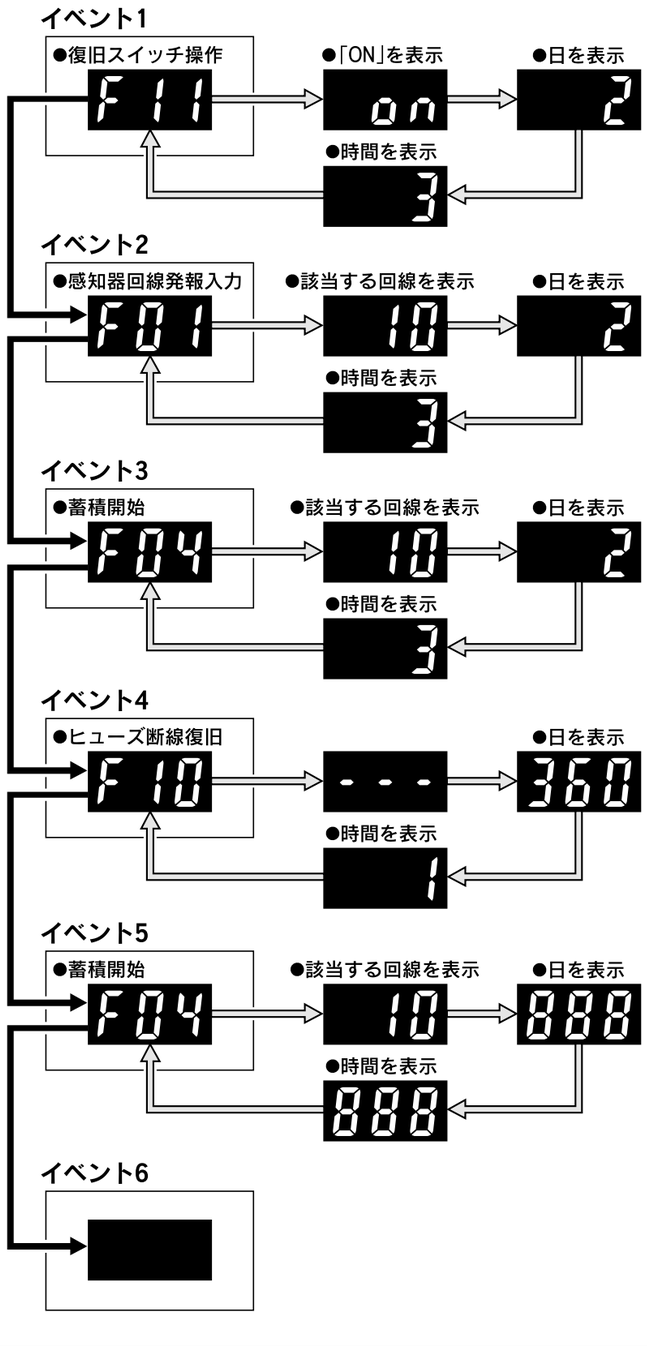
2.点検のしかた

■履歴表示の確認

回線選択表示窓の表示（履歴コード）	履歴コードの内　容	回線選択スイッチ(+1)を押したあとの回線選択表示窓の表示	内　　容
F00	受信機動作開始	- - - を表示する。	受信機に電源が入り、動作開始したことを示します。
F01	感知器回線発報入力	回線を表示する。	該当回線の感知器回線（L-C）の入力があったことを示します。
F02	諸警報回線(自己保持なし)〔L-C：諸警報回線を自己保持なしで設定した場合〕入力復旧	回線を表示する。	該当回線の諸警報回線（自己保持なし）（L-C：諸警報回線を自己保持なしで設定した場合）の入力が復旧したことを示します。
F03	発信機発報入力	- - - を表示する。	発信機発報（A端子）入力があったことを示します。
F04	蓄積開始	回線を表示する。	該当回線の火災入力により蓄積開始したことを示します。
F05	自動解除時間（TA）経過によるタイムアップ	- - - を表示する。	地区音響の自動解除時間（TA）が経過したことを示します。
F06	一斉鳴動移行時間（TC）経過によるタイムアップ	- - - を表示する。	地区音響の一斉鳴動移行時間（TC）が経過したことを示します。
F07	感知器配線断線発生	回線を表示する。	該当回線の感知器回線に断線が発生したことを示します。
F08	感知器配線断線復旧	回線を表示する。	該当回線の感知器回線の断線が復旧したことを示します。
F09	ヒューズ断線発生	- - - を表示する。	ヒューズ断線が発生したことを示します。
F10	ヒューズ断線復旧	- - - を表示する。	ヒューズ断線が復旧したことを示します。
F11	復旧	on を表示する。	復旧スイッチを押して、復旧したことを示します。
F12	試験復旧スイッチ操作	- - - を表示する。	試験復旧状態で復旧したことを示します。
F13	地区音響強制停止状態	on または oFF を表示する。	on：地区音響強制停止状態になったことを示します。（36ページ参照） oFF：地区音響強制停止状態が解除されたことを示します。（36ページ参照）
F14	地区音響一時停止状態	on または oFF を表示する。	on：ベル（地区音響）一時停止スイッチが押されたことを示します。 oFF：ベル（地区音響）一時停止解除スイッチが押されたことを示します。
F15	非常放送連動停止スイッチ操作	on または oFF を表示する。	on：非常放送連動停止状態を示します。 oFF：非常放送連動停止状態が解除されたことを示します。
F16	移信停止スイッチ操作	on または oFF を表示する。	on：移信停止状態を示します。 oFF：移信停止状態が解除されたことを示します。
F17	防排煙連動停止スイッチ操作	on または oFF を表示する。	on：防排煙連動停止状態を示します。 oFF：防排煙連動停止状態が解除されたことを示します。
F18	地区音響一斉鳴動スイッチ操作	on または oFF を表示する。	on：地区音響一斉鳴動状態を示します。 oFF：地区音響一斉鳴動状態が解除されたことを示します。
F19	地区音響相互鳴動入力	on または oFF を表示する。	on：地区音響相互鳴動入力発生状態を示します。 oFF：地区音響相互鳴動入力復旧状態を示します。
F20	非常放送地区音響停止入力	on または oFF を表示する。	on：非常放送地区音響停止入力発生状態を示します。 oFF：非常放送地区音響停止入力復旧状態を示します。
F21	登録データ異常	- - - を表示する。	電源投入時・一斉試験時・定期試験時において、登録データ異常が発生したことを示します。

■履歴確認モードの例（イベントが5回あった場合）

●⟶は回線選択スイッチ（＋10）を押す。
●⇨は回線選択スイッチ（＋1）を押す。



イベント内容
●2日と3時間前（約51時間前）に復旧スイッチの操作があったことを示します。

イベント内容
●2日と3時間前（約51時間前）に感知器回線の10回線に発報があったことを示します。

イベント内容
●2日と3時間前（約51時間前）に感知器回線の10回線が蓄積開始したことを示します。

イベント内容
●360日と1時間前にヒューズ断線が復旧したことを示します。

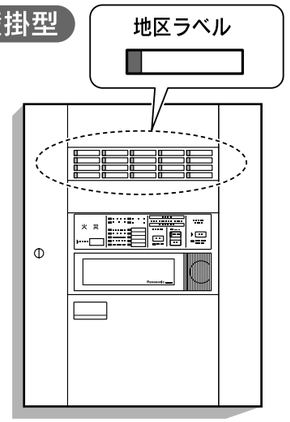
イベント内容
●365日（1年）以上前に感知器回線の10回線が蓄積開始したことを示します。

イベント内容
●すべての履歴表示が終了したことを示します。

3.部品などの交換方法

受信機の地区ラベルの交換

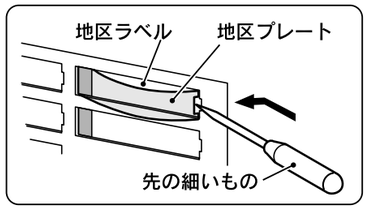
壁掛型



●地区ラベル（白色：BVF15003307）（別売）、（黄色：BVF31003307）（別売）、（橙色：BVF31003317）（別売）、地区プレート（BVF15003317）（別売）については当社へお問い合わせください。

取りはずし方

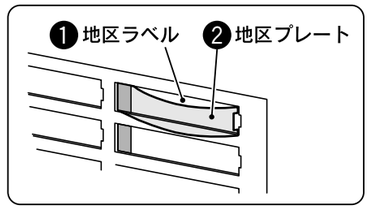
●図のように地区プレートを取りはずす。



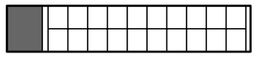
取り付け方

❶ 地区ラベルを挿入する。

❷ 図のように地区プレートを取り付ける。



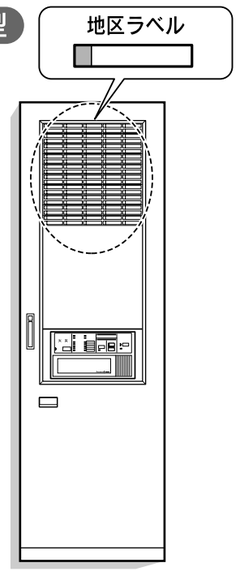
地区ラベルについて



名称の先頭をそろえるとき…

●図のように、裏面に位置決めのための印がついています。表から薄く見えますので、ご活用ください。

自立型



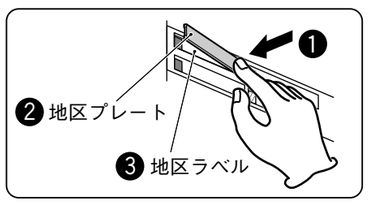
●地区ラベル（白色：BV9957）（別売）、（黄色：BVJ31083307）（別売）、（橙色：BVJ31083317）（別売）、地区プレート（BV9956）（別売）については当社へお問い合わせください。

取りはずし方

❶ 地区プレートの右端を押す。（左端が持ち上がります。）

❷ 地区プレートの左端を持ち取りはずす。

❸ 次に、地区ラベルを取りはずす。



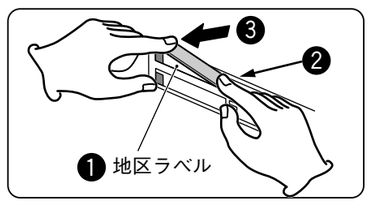
取り付け方

❶ 地区ラベルを挿入する。

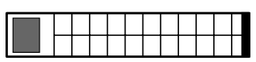
❷ 地区プレートの右端を押す。

❸ 地区プレートの右端を押したまま、左端を差し込む。

❹ 右端をはなしたあと、左端をはなす。



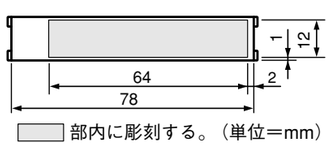
地区ラベルについて



名称の先頭をそろえるとき…

●図のように、裏面に位置決めのための印がついています。表から薄く見えますので、ご活用ください。

地区プレートに彫刻をする場合



部内に彫刻する。（単位＝mm）

受信機の電源ユニットの交換

●電源ユニットには寿命があります。操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯している場合、または交流電源灯以外のすべてのランプが消灯している場合に交換してください。
詳細については当社へお問い合わせください。

品　番	使用電池容量（mAh）
BVF15004027	1650
BVF31004017	2500
BVF31004027	3500

受信機の電池の交換

電池交換時の注意事項

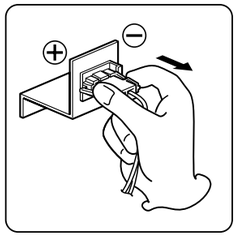
●電池を取りはずすときは、必ずAC100V電源は「切」の状態で行ってください。
●ニカド電池は、当社受信機専用品（鑑定合格品）をご使用ください。（49・50ページ参照）

お願い事項

●ニカド電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済の電池は捨てないで、リサイクルへご協力ください。
●ニカド電池の寿命は3年です。取り付け日から3年で交換してください。
停電時、正常に機能しない場合があります。

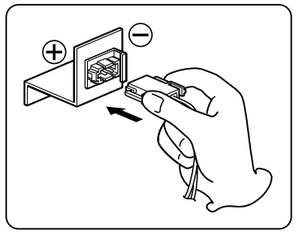
取りはずし方

❶ 接続コネクタの両端をつまみながら抜き、電池固定バンドを取りはずし、電池を取りはずす。



取り付け方

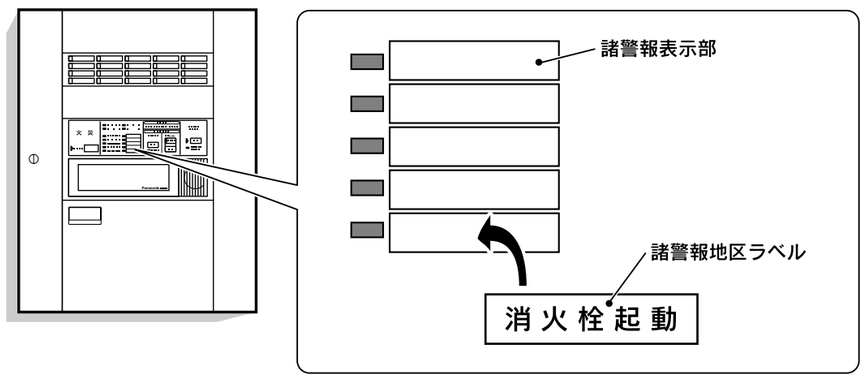
❶ 新しい電池の接続コネクタを差し込み、電池を本体内に収納し、束線バンド（市販品）で固定する。



諸警報表示部について

❶ 諸警報表示部に付属の諸警報地区ラベルを貼り付ける。

（諸警報地区ラベルに希望の名称がない場合、ラベルの枠内に収まるように記入してください。）



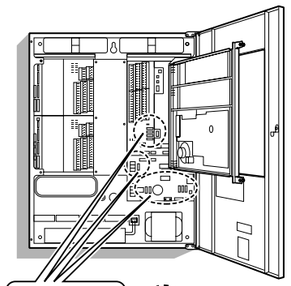
3.部品などの交換方法

受信機のヒューズの交換

⚠警告

禁止

●ヒューズ交換は電源(AC 100 V)を切り、電池のコネクタを抜いた状態で行ってください。
感電のおそれがあります。
●ヒューズは必ず指定のものをご使用ください。
それ以外のものを使用した場合、発火・故障の原因になります。

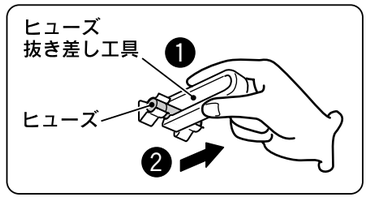


注
●ヒューズ交換時は、となりのヒューズ金具と接触させないでください。

取りはずし方

❶ヒューズにヒューズ抜き差し工具を挿入する。

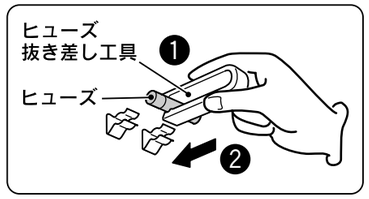
❷ヒューズ抜き差し工具をつまみ引っ張る。



取り付け方

❶ヒューズ抜き差し工具にヒューズを挿入する。

❷ヒューズ抜き差し工具をつまみ、ヒューズ金具に挿入する。



●ヒューズ抜き差し工具は、予備品 保管用 の袋に入っています。

感知器・表示灯について

■感知器について

⚠警告

必ず行う
●感知器を取り付けるときは、確実に止まるまで時計方向にまわしてください。
正しく取り付けないと通電不良や落下のおそれがあります。

禁止
●誤って落下や衝撃を加えたり、変形したような感知器は使用しないでください。
正常に機能しない場合があります。

分解禁止
●感知器は分解したり、衝撃を与えたりしないでください。
正常に火災感知をしなくなるおそれがあります。

■表示灯について

⚠警告

禁止
●表示灯の表示ランプは、指定の定格品以外は使用しないでください。
発火・故障の原因となります。

4.内部回路図

ご注意

●蓄積型感知器の接続はできません。
●当社煙感知器(光電式・イオン化式)は1回線当たり20コまで接続可能。
●当社自己保持型熱感知器は1回線当たり35コまで接続可能。
●当社光電式分離型感知器は1回線当たり1コまで接続可能。
●当社炎感知器は、1回線当たり20コまで接続可能。
●非常放送設備(音声警報機能付)を接続する場合は下記の内容にご注意ください。
1. EAn/Bn/Dn端子には、地区ベルを接続せず、非常放送設備(音声警報機能付)を接続してください。
2. コネクタを「JB」側から「JE」側に変更してください。
3. 一斉鳴動移行時間(TC)を「移行しない」に設定してください。
(詳しくは施工説明書(3ページ)を参照してください。)
●必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
●建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
1. 地区ベルが当社BV9212・BV9213の場合はBV9262・BV9263に、当社BV9214・BV9214Kの場合はBV9253・BV9254に交換が必要です。
2. 地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

■適用品番

●壁掛型:BVF31□□K(□□は回線数)
ただし、上記品番のものは、回路図(47・48ページ)中 ※1 を削除する。
●自立型:BVF32□□KF(□□は回線数)

記号	名　称
S1	交流電源スイッチ
F1,F2	交流一次側ヒューズ
F3	電源第一系統ヒューズ
F4	電源第二系統ヒューズ
F5	表示灯二次側ヒューズ
F6	電池ヒューズ
FA	発信機応答ヒューズ
FB	地区音響ヒューズ
FI	副受信機ヒューズ
FD	防排煙制御ヒューズ
SP	音声警報スピーカー
BZ1	ブザー
RYP1,RYP2	電源切替リレー
RYDK	電池試験リレー
RYA	発信機応答リレー
RYR	火災復旧リレー
RYT	副受用音響リレー
RYBL	地区音響一斉鳴動リレー
RYCn	地区リレー
RYF	火災代表リレー
RYS	消火栓連動リレー
FYI	非常放送連動停止リレー
RYEF	非常放送火災確認リレー
RYDS	制御電源供給リレー

記号	名　称
RYBC	地区音響コモンリレー
LE2,1~LE2,4	火災灯
LAn,LBn	地区灯
LP1	交流電源灯
LE4	ガイダンス表示(現場確認灯)
LE5,LE6,LE17,LE18 LE28~LE30,LE32 LE35~LE40	各種スイッチ灯
LE7,LE8	電池試験結果灯
LE9,LE10	蓄積中灯
LE11	警戒中灯
LE12	スイッチ注意灯
LE13	トラブル灯
LE14	地区音響強制停止灯
LE15	非常放送中灯
LE16	防排煙連動停止灯
LE21	消火栓灯
LE22	電話灯
LE23~LE27	諸警報地区灯
LE31	受信機音響強制停止灯
LE33	ガイダンス表示(右矢印灯)
LE34	発信機灯
S1	受信機音響停止スイッチ
S2	ベル(地区音響)一時停止スイッチ
S3	ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ

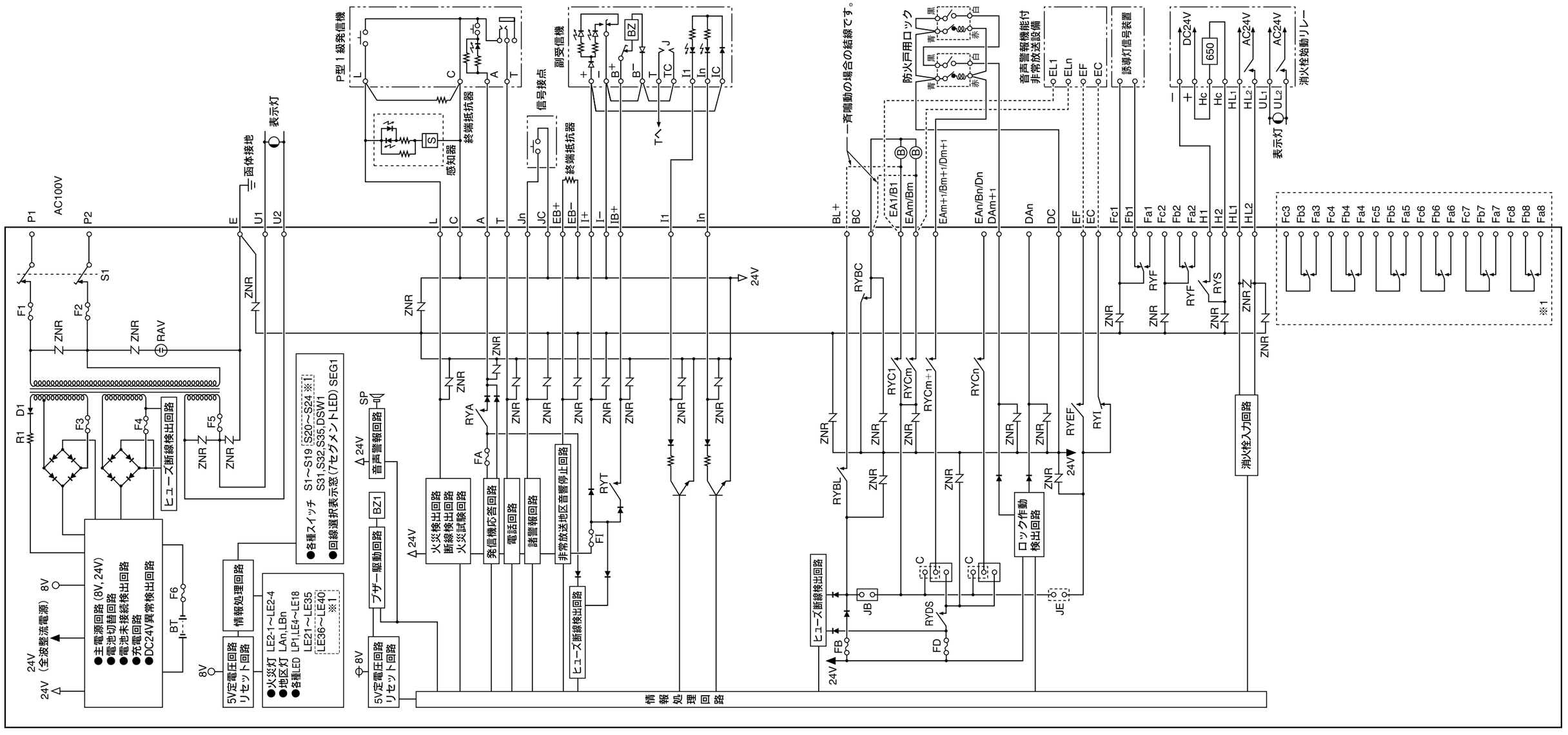
記号	名　称
S4	復旧スイッチ
S5	蓄積解除スイッチ
S6	試験復旧スイッチ
S7	地区音響一斉鳴動スイッチ
S8	点検スイッチ
S9	回線選択(+10)スイッチ
S10	回線選択(+1)スイッチ
S11	トラブル確認スイッチ
S12	移信停止スイッチ
S13	火災試験スイッチ
S14	防排煙個別制御スイッチ
S15	一斉試験スイッチ
S16	電池試験スイッチ
S17	消火栓連動停止スイッチ
S18	防排煙連動停止スイッチ
S19	非常放送連動停止スイッチ
S20~S24	フリースイッチ1~5
S31	あき回線登録スイッチ
S32	盤内ユニット登録スイッチ
S35	現場調整設定スイッチ
DSW1	各種設定スイッチ
SEG1	回線選択表示窓(7セグメントLED)
BT	電　池
ZNR,RAV	サージアブソーバ

※ZNR・RAV(サージアブソーバ)は雷サージ対策部品です。

4.内部回路図

●スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。

●出荷時の回線種別設定は、全回線とも自火報回線の設定です。
●自火報兼用回線は、回線種別として自火報回線・スプリンクラー回線・諸警報回線のいずれかに設定可能です。
●自火報・防排煙兼用回線は、回線種別として自火報回線・スプリンクラー回線・諸警報回線・防排煙回線・防排煙復帰回線のいずれかに設定可能です。
また、自火報・防排煙兼用回線の(EAm+1…EAn)と(Dm+1…Dn)は端子を兼用しており、内部の非常放送／地区音響／防排煙制御切替設定コネクタで回線ごとに設定が必要です。
(詳しくは設定マニュアル(39ページ)を参照してください。)



5.定格・仕様

■壁掛型の場合

国家検定型式番号	受第12～1号								
常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回線数	10	15	20	25	30	35	40	50
		消費電力：警戒時最大	25VA		30VA	45VA				
		消費電力：警報時最大	145VA		160VA	180VA		190VA		
予備電源（鑑定合格品）	10・15回線　DC24V 1650mAh ニッケルカドミウム蓄電池(充電方式：トリクル充電　充電電流33mA)(BV 98105)(鑑定合格品) 20・25・30回線 DC24V 2500mAh ニッケルカドミウム蓄電池(充電方式：トリクル充電　充電電流47mA)(BV 98109)(鑑定合格品) 35・40・50回線 DC24V 3500mAh ニッケルカドミウム蓄電池(充電方式：トリクル充電　充電電流73mA)(BV 98104)(鑑定合格品)								
※1 地区音響装置	10・15回線　DC24V(全波整流電源) 300mA(BL+−BC) 20回線　DC24V(全波整流電源) 450mA(BL+−BC) 25・30回線　DC24V(全波整流電源) 600mA(BL+−BC) 35・40・50回線 DC24V(全波整流電源) 800mA(BL+−BC)　非常放送時、地区音響停止機能(EB+−EB−)								
※2 非常放送連動	無電圧接点(EC−EA1・・・・EAn, EF)接点容量DC30V 1Aまで								
表示灯	10・15・20回線　AC24V 420mA(U1−U2) 25・30・35・40・50回線 AC24V 840mA(U1−U2)								
副受信機電源	DC24V　200mA(I+−I−)								
感知器電圧・電流	DC24V　短絡電流39mA　外部配線抵抗 往復50Ω以下(C−L1…Ln)								
終端抵抗器	10kΩ(BV 9840010)								
※3 感知器接続数	当社煙感知器：1回線当たり20コまで　当社自己保持型熱感知器：1回線当たり35コまで 当社光電式分離型感知器：1回線当たり1コまで　当社炎感知器：1回線当たり20コまで								
主音響装置	警報音(断続音)＋音声メッセージ172mA・85dB/m以上								
副受信機	オープンコレクタ出力(I−−I1…In)出力容量DC30V 30mA　副受用音響出力(IB+−I−)電源容量DC24V 20mA								
※4 ロック接続容量	DC24V(全波整流電源) 1回線当たり最大容量2Aまで、全回線同時作動最大容量2Aまで(DC−Dm+1…Dn)								
作動音響装置	警報音(断続音)135mA・70dB/m以上								
消火栓始動	無電圧接点(H1−H2)接点容量DC30V 1Aまで　始動確認灯24V 5mA(HL1−HL2)								
火災代表移信接点	無電圧接点2系列(Fc1−Fa1・Fb1)(Fc2−Fa2・Fb2)接点容量DC30V 1Aまで								
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)								
諸警報音響装置	警報音(断続音)135mA・70dB/m以上								
諸警報電圧・電流	DC24V　短絡電流5mA　外部配線抵抗 往復50Ω以下(JC−J1…J5)								
使用周囲温度	0℃～＋40℃								
質量	10・15・20回線…19kg　25・30回線…20kg　35・40・50回線…30kg								
主要部品材質 扉・函・枠	鋼板（扉・枠・函t＝1.2）5分ツヤ有　メラミン焼付塗装、鋼板(取付金具t=2.3)脱脂								

※1. 非常放送側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
※2. EA1…EAn端子は、地区音響の区分鳴動時にも使用できます。EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報または第2報めの感知器発報の場合です。一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。
※3. 1回線に熱感知器(自己保持型)と煙感知器または炎感知器の混在接続の場合は最大20コまで接続できます。
※4. 自火報・防排煙兼用回線の(EAm+1…EAn)と(Dm+1…Dn)は端子を兼用しており、内部の非常放送/地区音響/防排煙制御切替設定コネクタで回線ごとに設定が必要です。(詳しくは設定マニュアル(39ページ)を参照してください。)

■自立型の場合

国家検定型式番号	受第12～1号							
常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回線数	40	50	60	70	80	90	100
		消費電力：警戒時最大	65VA			70VA			
		消費電力：警報時最大	200VA		205VA		210VA		
予備電源（鑑定合格品）	DC24V 3500mAh ニッケルカドミウム蓄電池(充電方式：トリクル充電 充電電流73mA)(BV 98104)(鑑定合格品)								
※1 地区音響装置	DC24V(全波整流電源) 800mA(BL+−BC) 非常放送時、地区音響停止機能(EB+−EB−)								
※2 非常放送連動	無電圧接点(EC−EA1・・・・EAn, EF)接点容量DC30V 1Aまで								
表示灯	AC24V 840mA(U1−U2)								
副受信機電源	DC24V 200mA(I+−I−)								
感知器電圧・電流	DC24V　短絡電流39mA　外部配線抵抗 往復50Ω以下(C−L1…Ln)								
終端抵抗器	10kΩ(BV 9840010)								
※3 感知器接続数	当社煙感知器：1回線当たり20コまで　当社自己保持型熱感知器：1回線当たり35コまで 当社光電式分離型感知器：1回線当たり1コまで　当社炎感知器：1回線当たり20コまで								
主音響装置	警報音(断続音)＋音声メッセージ172mA・85dB/m以上								
副受信機	オープンコレクタ出力(I−−I1…In)出力容量DC30V 30mA　副受用音響出力(IB+−I−)電源容量DC24V 20mA								
※4 ロック接続容量	DC24V(全波整流電源) 1回線当たり最大容量2Aまで、全回線同時作動最大容量2Aまで(DC−Dm+1…Dn)								
作動音響装置	警報音(断続音)135mA・70dB/m以上								
消火栓始動	無電圧接点(H1−H2)接点容量DC30V 1Aまで　始動確認灯24V 5mA(HL1−HL2)								
火災代表移信接点	無電圧接点2系列(Fc1−Fa1・Fb1)(Fc2−Fa2・Fb2)接点容量DC30V 1Aまで								
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)								
諸警報音響装置	警報音(断続音)135mA・70dB/m以上								
諸警報電圧・電流	DC24V　短絡電流5mA　外部配線抵抗 往復50Ω以下(JC−J1…J5)								
使用周囲温度	0℃～＋40℃								
質量	150kg								
主要部品材質 扉・函・枠	鋼板（扉t＝2.3、函t＝1.6）5分ツヤ有　メラミン焼付塗装								

※1. 非常放送側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
※2. EA1…EAn端子は、地区音響の区分鳴動時にも使用できます。
EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報または第2報めの感知器発報の場合です。
一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。
※3. 1回線に熱感知器(自己保持型)と煙感知器または炎感知器の混在接続の場合は最大20コまで接続できます。
※4. 自火報・防排煙兼用回線の(EAm+1…EAn)と(Dm+1…Dn)は端子を兼用しており、内部の非常放送/地区音響/防排煙制御切替設定コネクタで回線ごとに設定が必要です。(詳しくは設定マニュアル(39ページ)を参照してください。)